

資料

地域移行を推進する人材養成研修 事前・事後アンケート結果

1 モデル研修に関するアンケート調査結果のポイント

- **回答者：**大阪会場・愛知会場をあわせて、事前アンケートと事後アンケート両方の回答者は54名であった。
- **16項目別の変化：**下表に示す通り、「(1)地域における精神医療の現状がわからない～(16)精神障害者にかかわることに不安がある」の16項目について、研修前と研修後に段階評価で意識を測定した。多くの項目が事後に改善がみられるが、事前と事後の差が大きい（改善が大きい）項目は「(4)地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない」「(9)入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない」「(10)地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない」である（合計欄の網掛け、詳細は151ページ～）。

【 16 項目に関する事前・事後の差 】

	A:あてはまらない			B:あまりあてはまらない			A+B:合計		
	前	後	差	前	後	差	前	後	差
(1)地域における精神医療の現状がわからない	14.1	21.0	6.9	37.5	48.4	10.9	51.6	69.4	17.8
(2)地域移行支援のプロセスがわからない	15.6	29.0	13.4	35.9	50.0	14.1	51.6	79.0	27.4
(3)精神障害者に関する地域の資源(関係機関や関係会議)をよく知らない	15.6	27.4	11.8	37.5	48.4	10.9	53.1	75.8	22.7
(4)地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない	14.1	33.9	19.8	34.4	45.2	10.8	48.4	79.0	30.6
(5)どのような職種や立場の人が地域移行支援にかかわっているか知らない	15.6	38.7	23.1	45.3	48.4	3.1	60.9	87.1	26.2
(6)地域移行支援における医療と福祉の連携は難しいと感じている	4.7	11.3	6.6	29.7	40.3	10.6	34.4	51.6	17.2
(7)精神障害者の長期入院の課題は、精神病院が努力すれば解決する	42.2	54.8	12.6	23.4	22.6	▲0.8	65.6	77.4	11.8
(8)精神障害者に対する地域の理解を得る自信がない	3.1	12.9	9.8	18.8	30.6	11.8	21.9	43.5	21.6
(9)入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない	4.7	14.5	9.8	21.9	54.8	32.9	26.6	69.4	42.8
(10)地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない	1.6	19.4	17.8	28.1	53.2	25.1	29.7	72.6	42.9
(11)地域の(自立支援)協議会のことをよく知らない	23.4	25.8	2.4	20.3	41.9	21.6	43.8	67.7	23.9
(12)地域移行支援で困った時にだれに相談したらいいかわからない	21.9	29.6	7.7	28.1	48.1	20.0	50.0	77.8	27.8
(13)地域移行支援にはあまり携わりたくない	26.6	71.0	44.4	42.2	22.6	▲19.6	68.8	93.5	24.7
(14)高齢の長期入院患者は地域移行支援の対象にならない	45.3	67.7	22.4	21.9	22.6	0.7	67.2	90.3	23.1
(15)【医療機関に所属している方】 家族に入院患者の退院を理解してもらえよう対応する自信がない	2.9	2.9	0.0	20.6	31.4	10.8	23.5	34.3	10.8
(16)【医療機関以外に所属している方】 精神障害者にかかわることに不安がある	52.0	55.6	3.6	32.0	22.2	▲9.8	84.0	77.8	▲6.2

※網掛けは研修後に理解が深まったという回答割合が高い上位3位

- **個人の変化：**個人における変化においても（157 ページ～）、「(9)入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない」「(10)地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない」において改善の変化が高い割合でみられた。
- **自由記載：**自由記載については分類、件数、内容について 159 ページより掲載している。

講義 1～2：精神障害者の地域移行をめぐる動向①②

- ・地域移行支援（患者に関するデータも含む）の現状と課題の把握につながった、関連制度や機関の理解につながったなどの意見が多い。

講義 3：体験談から地域生活について考える

- ・ピアサポーターに関する強い関心が示された。ピアサポーターに必要な支援ばかりでなく、一緒に働くスタッフや受け入れ体制などを知りたいという声も多くあげられている。
- ・当事者としての目線、生きた言葉などが参加者に大きな刺激を与える結果となっている。

講義 4：地域移行推進における関係機関・関係者の役割

- ・関係する各機関（職種）の役割や立場の理解が深まったという意見が多い。地域にある他の関連機関ばかりでなく、自らの勤務先の他部署や他職種などに対する理解をあげる意見もみられた。
- ・行政（保健所）の役割についてわからなかったが、理解が深まったという意見がみられた。

講義 5：退院意欲を取り戻すための支援

- ・支援者があきらめてはいけないこと、いろいろなアプローチや方法が参考になったという意見、自身の仕事の意味の再認識などがあげられた。

講義 6：地域移行の進め方と市町村（圏域）における連携体制の構築

- ・具体的進め方、連携の必要性、自分の役割の再認識、情報の大切さなどがキーワードとしてあげられている。

演習：病院と指定一般相談支援事業所が連携した地域移行の進め方

- ・ロールプレイがよかったという意見が多い。

全体をとおして

- ・多職種と一緒に研修することの重要性、シェアリングの時間が効果的という意見が多かったが、一方で用語がわからないなど（医療職からの意見）多職種参加であるがゆえの課題もあげられている。

2 調査の枠組み

【 調査の枠組み 】

	事前アンケート	事後アンケート
月 日	2016 年月 12 月～各研修当日	大阪会場：2016 年 12 月 26～27 日 愛知会場：2017 年 1 月 6～7 日
実施方法	1. 事前アンケート回答フォームから送信 2. 手書きで回答して当日受付に提出	1. 研修会場にてアンケート用紙を配付 2. プログラム時間内で回答、提出
対 象 者	大阪会場 研修参加予定回答者 35 名 愛知会場 研修受講予定回答者 29 名 合 計 64 名	大阪会場 研修受講回答者 35 名 愛知会場 研修受講回答者 27 名 合 計 62 名
比較対象者	事前アンケートと事後アンケート両方の回答者数 54 名	

3 アンケート結果 回答者の基本属性

(1) 性別

【 性別 】

	事前アンケート		事後アンケート	
	人数	%	人数	%
男性	23	35.9	22	35.5
女性	39	60.9	40	64.5
無回答	2	3.1	0	0.0
全体	64	100.0	62	100.0

(2) 年齢

【 16 項目に関する事前・事後の差 】

	事前アンケート		事後アンケート	
	人数	%	人数	%
20 歳代以下	14	21.9	14	22.6
30 歳代	27	42.2	27	43.5
40 歳代	8	12.5	8	12.9
50 歳代	12	18.8	12	19.4
60 歳代以上	2	3.1	1	1.6
無回答	1	1.6	0	0.0
全体	64	100.0	62	100.0

(3)所属先の種類

【 所属先の種類 】

	事前アンケート		事後アンケート	
	人数	%	人数	%
地域移行機能強化病棟をもつ精神科病院	23	35.9	24	38.7
上記以外の精神科病院	12	18.8	11	17.7
基幹(委託)相談支援事業所	13	20.3	13	21.0
指定一般相談支援事業所	14	21.9	12	19.4
その他	1	1.6	2	3.2
無回答	1	1.6	0	0.0
全体	64	100.0	62	100.0

(4)在職年数

【 在職年数 】

	事後アンケート	
	人数	%
1 年未満	6	9.7
1～5 年未満	23	37.1
5～10 年未満	14	22.6
10～20 年未満	8	12.9
20 年以上	7	11.3
無回答	4	6.5
全体	62	100.0

(5)所属先での役職・立場

【 所属先での役職・立場 】

	事前アンケート		事後アンケート	
	人数	%	人数	%
施設や事業所等を管理する立場 (経営者、施設長、管理者等)	7	10.9	8	12.9
職員を指導する立場 (係長、主任等)	9	14.1	9	14.5
直接支援をする職員	40	62.5	41	66.1
事務職員	1	1.6	1	1.6
その他、上記に該当しない職員	1	1.6	1	1.6
無回答	6	9.4	2	3.2
全体	64	100.0	62	100.0

(6)主な職種

【 主な職種 】

	事前アンケート		事後アンケート	
	人数	%	人数	%
医師	0	0.0	0	0.0
看護師	10	15.6	10	16.1
保健師	1	1.6	1	1.6
精神保健福祉士	29	45.3	31	50.0
作業療法士	5	7.8	5	8.1
相談支援専門員	14	21.9	14	22.6
ピアサポーター	0	0.0	1	1.6
社会福祉士	0	0.0	0	0.0
社会福祉主事	0	0.0	0	0.0
行政の職員	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0
無回答	5	7.8	0	0.0
全体	64	100.0	62	100.0

(7)主な職種の経験年数

【 主な職種の経験年数 】

1 年未満
1～5 年未満
5～10 年未満
10～20 年未満
20 年以上
無回答
全体

事後アンケート	
人数	%
1	1.6
17	27.4
14	22.6
13	21.0
10	16.1
7	11.3
62	100.0

(8) 指定一般相談事業所が行う地域移行支援への取り組みの有無

【 指定一般相談事業所が行う地域移行支援への取り組みの有無 】

したことがある
したことはない
無回答
全体

事後アンケート	
人数	%
26	41.9
34	54.8
2	3.2
62	100.0

(9) 実際の地域移行人数

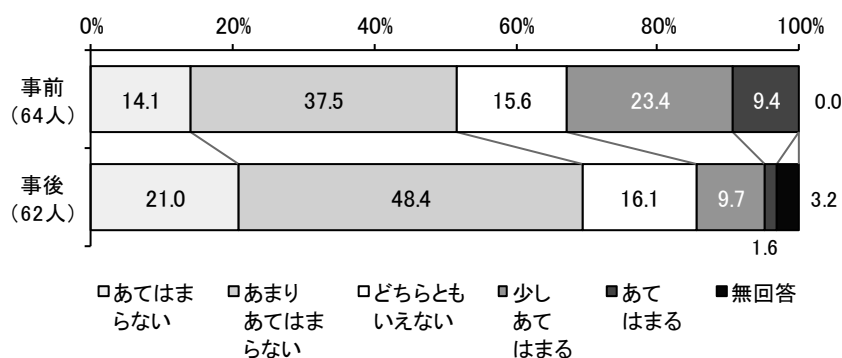
【 実際の地域移行人数 】

0 人
1 人
2 人
4 人
5 人
10 人
20 人
無回答
全体

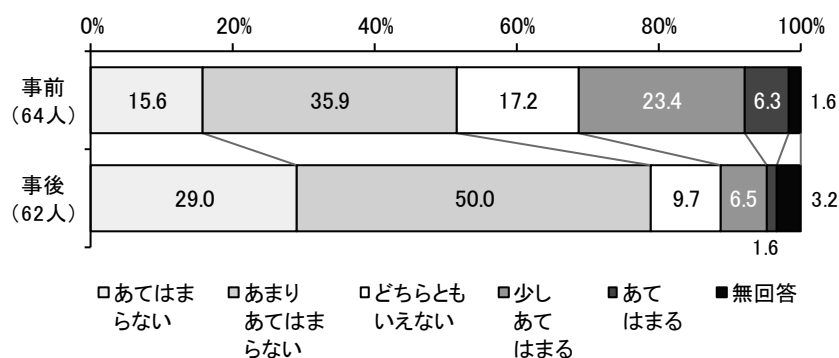
事後アンケート	
人数	%
6	23.1
11	42.3
3	11.5
1	3.8
2	7.7
1	3.8
1	3.8
1	3.8
26	100.0

4 アンケート結果 精神障害者の地域移行に対する意識の変化

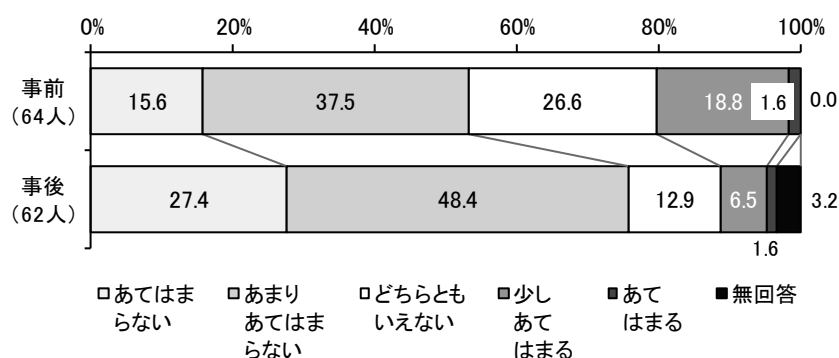
(1) 地域における精神医療の現状がわからない



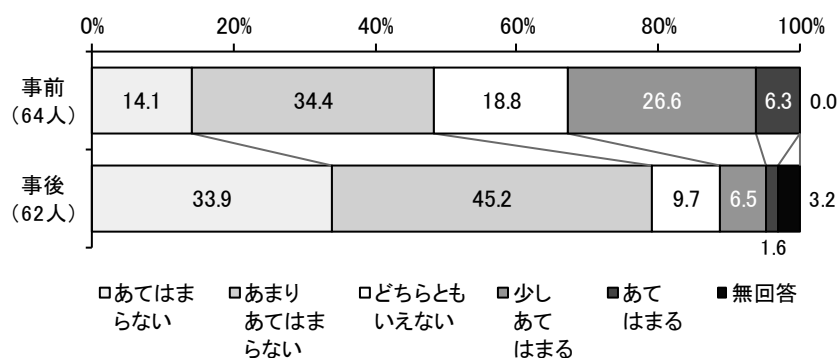
(2) 地域移行支援のプロセスがわからない



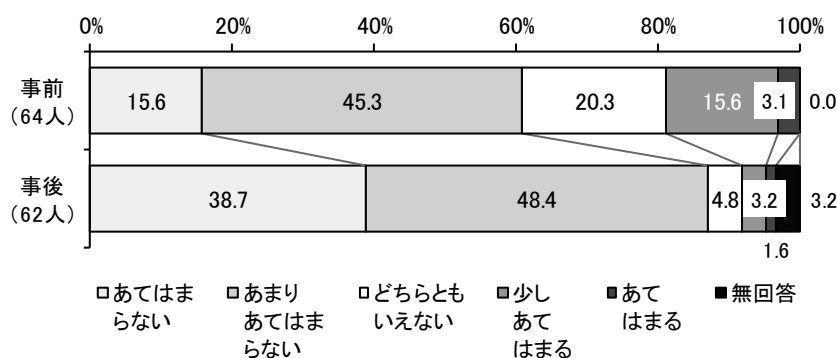
(3) 精神障害者に関する地域の資源(関係機関や関係会議)をよく知らない



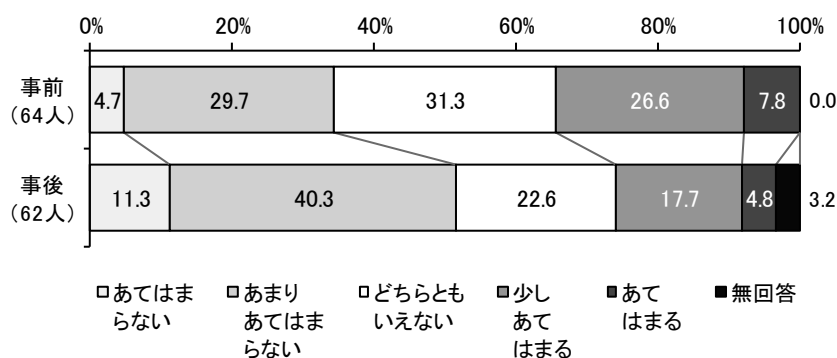
(4) 地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない



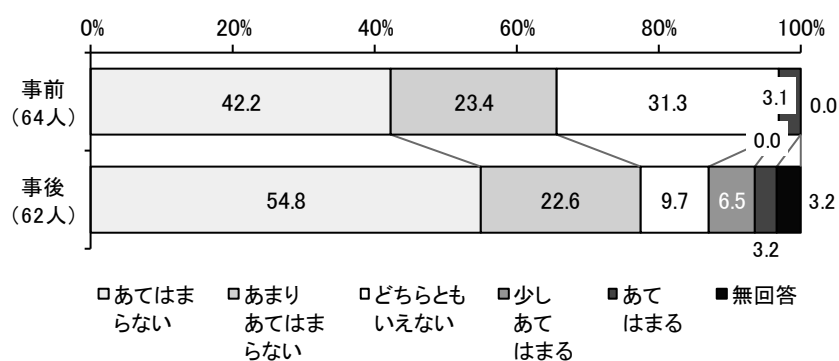
(5) どのような職種や立場の人が地域移行支援にかかわっているか知らない



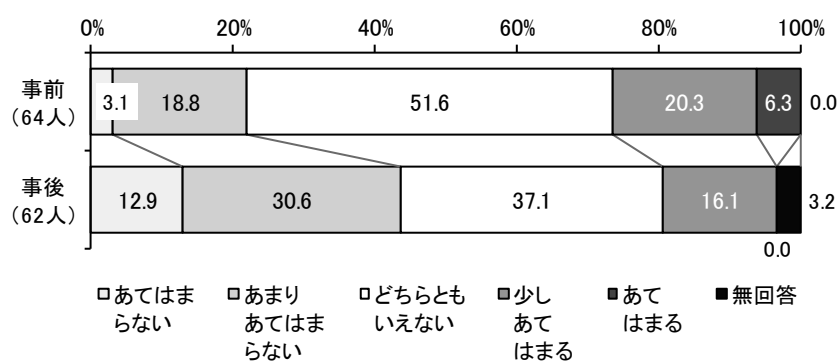
(6) 地域移行支援における医療と福祉の連携は難しいと感じている



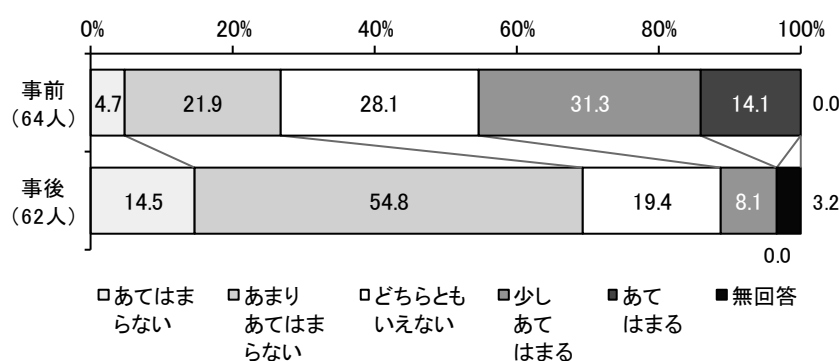
(7) 精神障害者の長期入院の課題は、精神病院が努力すれば解決する



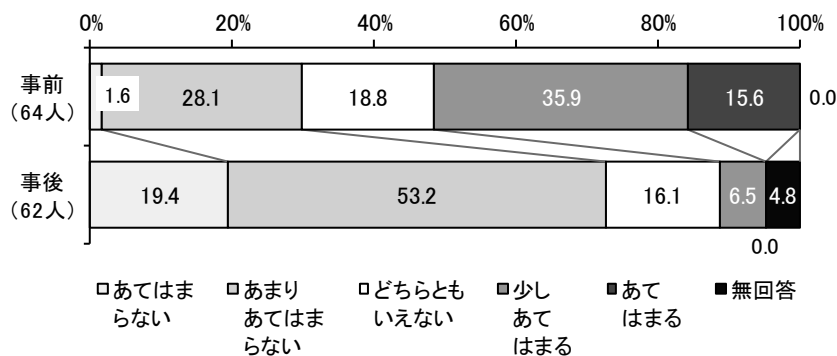
(8) 精神障害者に対する地域の理解を得る自信がない



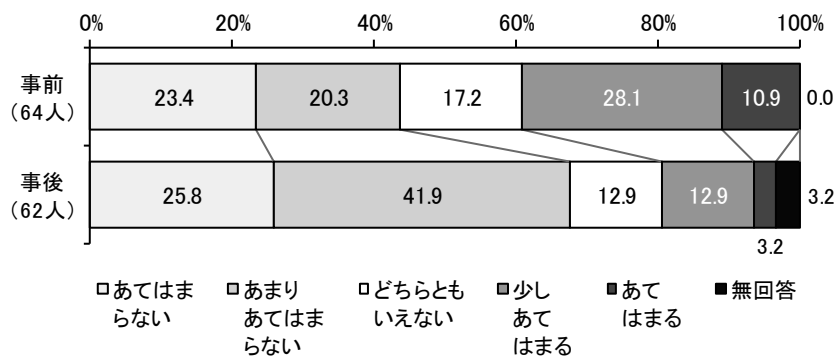
(9) 入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない



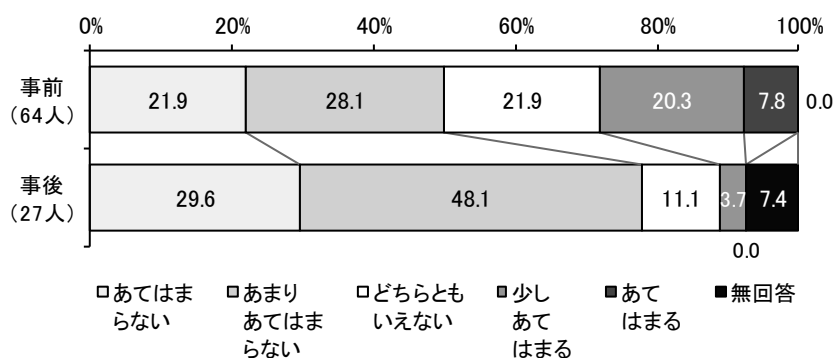
(10) 地域移行支援におけるピアサポートの役割や連携の取り方がわからない



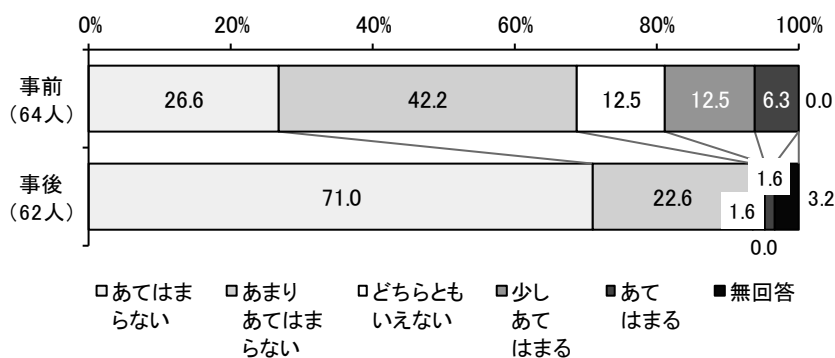
(11) 地域の（自立支援）協議会のことをよく知らない



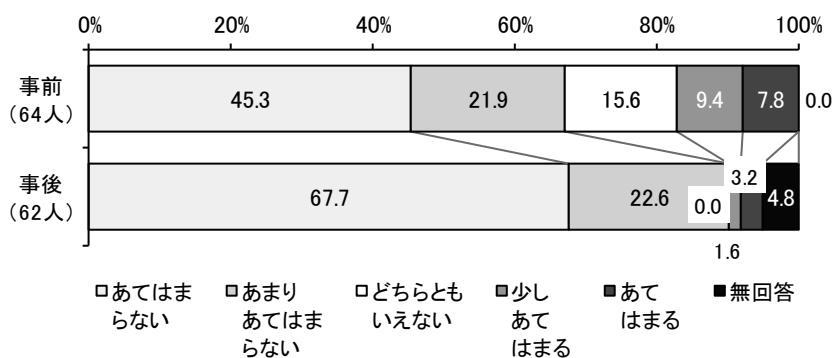
(12) 地域移行支援で困った時にだれに相談したらいいかわからない



(1 3) 地域移行支援にはあまり携わりたくない

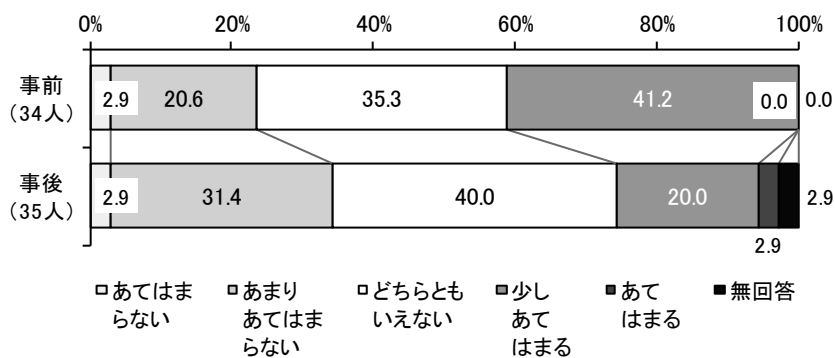


(1 4) 高齢の長期入院患者は地域移行支援の対象にならない

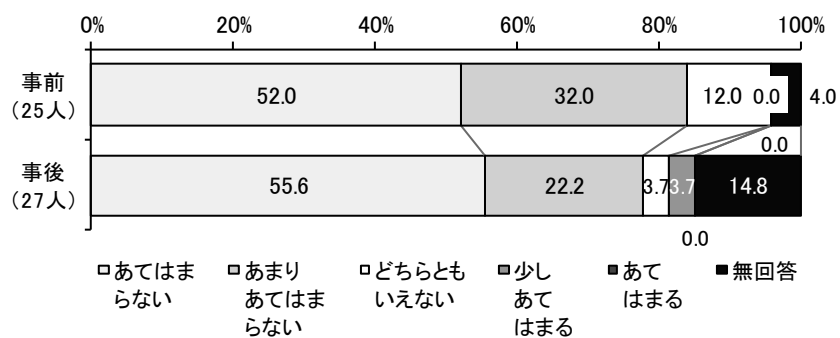


(1 5) 【医療機関に所属している方】

家族に入院患者の退院を理解してもらえるよう対応する自信がない



(16) 【医療機関以外に所属している方】
精神障害者にかかわることに不安がある



(17)各参加者の意識の変化

	有効 回答数	あてはまる ↓ あてはまらない	変化なし	あてはまらない ↓ あてはまる
1 地域における精神医療の現状がわからない	54	38.9%	42.6%	18.5%
2 地域移行支援のプロセスがわからない	54	59.3%	33.3%	7.4%
3 精神障害者に関する地域の資源(関係機関や関係会議)をよく知らない	54	48.1%	42.6%	9.3%
4 地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない	54	59.3%	31.5%	9.3%
5 どのような職種や立場の人が地域移行支援にかかわっているか知らない	54	57.4%	35.2%	7.4%
6 地域移行支援における医療と福祉の連携は難しいと感じている	54	37.0%	44.4%	18.5%
7 精神障害者の長期入院の課題は、精神病院が努力すれば解決する	54	31.5%	48.1%	20.4%
8 精神障害者に対する地域の理解を得る自信がない	54	44.4%	44.4%	11.1%
9 入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない	54	63.0%	35.2%	1.9%
10 地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない	54	74.1%	20.4%	5.6%
11 地域の(自立支援)協議会のことをよく知らない	54	48.1%	42.6%	9.3%
12 地域移行支援で困った時にだれに相談したらいいかわからない	23	52.2%	39.1%	8.7%
13 地域移行支援にはあまり携わりたくない	54	55.6%	40.7%	3.7%
14 高齢の長期入院患者は地域移行支援の対象にならない	54	40.7%	53.7%	5.6%
15 【医療機関に所属している方】 家族に入院患者の退院を理解してもらえるよう対応する自信がない	31	35.5%	45.2%	19.4%
16 【医療機関以外に所属している方】 精神障害者にかかわることに不安がある	23	38.9%	42.6%	18.5%

※各項目の第1位の割合に網掛け

※無回答の掲載は省略している

※変化なし＝あてはまる→あてはまる、少しあてはまる→少しあてはまる、あまりあてはまらない→あまりあてはまらない、あてはまらない→あてはまらない

※あてはまる⇒あてはまらない＝例:あてはまる→少しあてはまる等、改善している場合はここに分類している

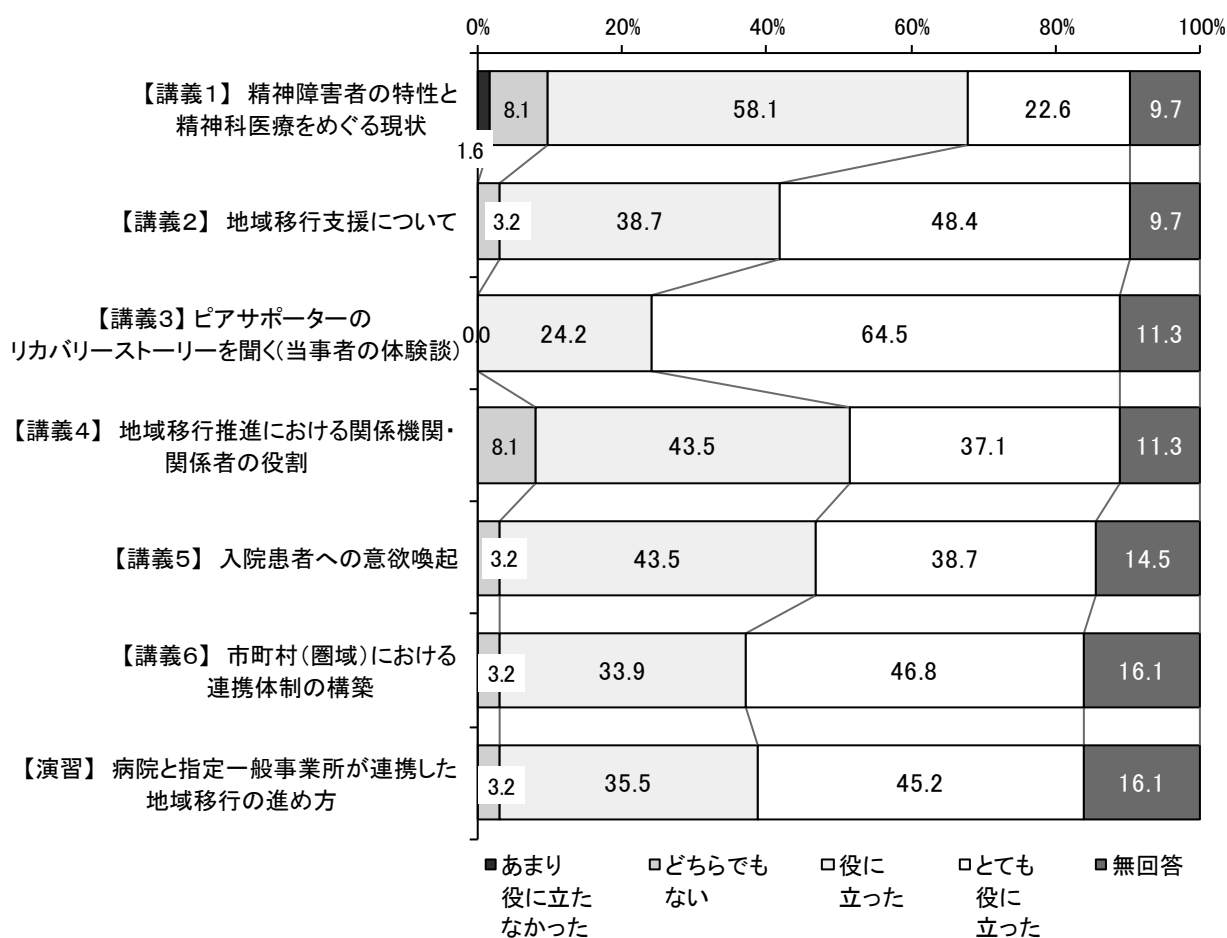
※あてはまらない⇒あてはまる＝例:少しあてはまる→あてはまる等、悪くなっている場合はここに分類している

5 事後アンケート結果

(1) 本日の研修の内容等は、現場での対応に役に立つ内容でしたか

- 【講義1】精神障害者の特性と精神科医療をめぐる現状
 【講義2】地域移行支援について
 【講義3】ピアサポーターのリカバリーストーリーを聞く(当事者の体験談)
 【講義4】地域移行推進における関係機関・関係者の役割
 【講義5】入院患者への意欲喚起
 【講義6】市町村(圏域)における連携体制の構築
 【演習】病院と指定一般事業所が連携した地域移行の進め方

※第2部の研修テキストの表題とは一致しない



6 自由記載の分類と内容

(1) 分類と件数一覧

※ () は件数

講義1：精神障害者の地域移行をめぐる動向①～精神科医療の現状～

■役に立ったこと (44)

1. 現状・動向・これからの方向性など(26)
2. 入院患者の状況(10)
3. 勉強になった・ためになった(3)
4. リフレーミング(2)
5. 退院後のイメージについて(2)
6. 地域移行機能強化病床の基準(1)

■より詳しく知りたい内容 (20)

1. 具体的な支援方法(4)
2. 背景や歴史(3)
3. 現状の把握(2)
4. 現場の課題(2)
5. 身近な地域の現状(2)
6. 機能強化病院について(2)
7. 高齢の精神障害者(1)
8. 今後の動向(1)
9. 情報の活用方法(1)
10. 対象者について(1)
11. 地域移行の必要性(1)

講義2：精神障害者の地域移行をめぐる動向②～地域移行支援について～

■役に立ったこと (47)

1. 法律・制度・動向など(17)
2. 各機関の役割・課題(13)
3. 地域移行の現状と課題(8)
4. 自分の仕事の再認識(5)
5. 事業の目的の再確認(2)
6. 地域移行のプロセス(2)

■より詳しく知りたい内容 (21)

1. 事例の紹介(4)
2. 自立生活援助(3)
3. 事業運営の方法(採算など)(3)
4. 介護保険とのかかわり(1)
5. 具体的な活用方法(1)
6. シェアリングの時間が短い(1)
7. 世界的動向との比較(1)
8. 体験談をいれてほしい(1)
9. デイケアについて(1)
10. 用語の解説(2)
11. 連携(1)
12. 自立支援協議会(1)
13. 地域生活支援拠点の創出(1)

講義3：体験談から地域生活について考える

■役に立ったこと (49)

1. 自分の仕事の再認識(11)
2. 感動した、よかった(9)
3. 当事者の目線からの話(9)
4. 生きた意見を聞けた(4)
5. ピア活動の実状(4)
6. 体験の専門家(4)
7. 地域生活の重要性を再認識(3)
8. 活動への想いを理解できた(2)
9. 当事者の生活の様子を知ることができた(2)
10. 当事者の力(1)

■より詳しく知りたい内容 (32)

1. ピアサポーターの声・体験談(4)
2. 当事者として支援者に求める事(4)
3. ピアサポーターと一緒に働くスタッフの意見(3)
4. 当事者がかかわる時間は大切である(3)
5. ピアサポーターを活用している事例(3)
6. 実際の地域生活について(2)
7. ピアサポーターが求めている支援(2)
8. ピアサポーターとしてどのような支援や活動の希望があるか(2)
9. ピアサポーターの実状(2)
10. 自分の地域にあう活動(1)
11. 退院までの流れ(1)
12. 実際の活動の写真など(1)
13. ピアサポーター受入れのしくみ(1)
14. ピア活動の発展を学びたい(1)
15. やらうと思えるきっかけ(1)
16. もっと時間がほしかった(1)

講義4：地域移行推進における関係機関・関係者の役割

■役に立ったこと (50)

1. 機関の役割を理解できた__全体(28)
2. 機関の役割を理解できた__行政(7)
3. 機関の役割を理解できた__保健所(3)
4. 機関の役割を理解できた__ピアサポーター(1)
5. 職種の役割を理解できた__全体(5)
6. 職種の役割を理解できた__作業療法士(1)
7. 実際にできていないことのギャップ(2)
8. 家族とのかかわり(1)
9. 機関の役割を知る事の必要性(1)
10. 自身の役割の再認識(1)

■より詳しく知りたい内容 (21)

1. 各機関の役割(6)
2. 基幹型相談支援センターの役割・事例(3)
3. 病院経営との関係(2)
4. 推進チーム(2)
5. 連携(2)
6. 保健所の取り組み(1)
7. シェアリングの時間の確保(1)
8. 在宅サービス(1)
9. 具体的な地域の例(1)
10. 機関ごとの取り組みの流れ(1)
11. ピアサポーター(1)

講義5：退院意欲を取り戻すための支援

■役に立ったこと (52)

1. 支援者があきらめてはいけない(12)
2. 利用者さんの気持ちの大切さ(9)
3. いろいろな視点・方法が参考になった(8)
4. 自分の仕事の再認識(6)
5. 重要なポイントがある事を知った(5)
6. 人権侵害であることを再認識(4)
7. 病院での取り組み事例を知った(3)
8. 連携(2)
9. わかりやすかった(2)
10. 病院の課題(1)

■より詳しく知りたい内容 (13)

1. 事例や体験・経験談(4)
2. 連携(3)
3. 支援のあり方(2)
4. 具体的手法(1)
5. 支援者の意識(1)
6. 病院の課題(1)
7. プログラム(1)

講義6：地域移行の進め方と市町村（圏域）における連携体制の構築

■役に立ったこと（55）

■より詳しく知りたい内容（9）

1. 支援の流れ・進め方(13) 2. 自分の仕事の再認識(12) 3. 連携(7) 4. 情報の大切さ(6) 5. 退院支援意欲の喚起(5) 6. 退院はゴールではなくスタート(3) 7. わかりやすかった(3) 8. ムービー(2) 9. 患者さんの気持ちの理解(1) 10. クライシスプラン(1) 11. シェアリング(1) 12. 地域づくりの方法(1)	1. 具体的事例(7) 2. チームづくり(1) 3. クライシスプラン(1)
---	---

演習：病院と指定一般相談支援事業所が連携した地域移行の進め方

■役に立ったこと（52）

■より詳しく知りたい内容（14）

1. ロールプレイ(17) 2. 意識の共有(10) 3. 病院や地域の状況を知ることができた(8) 4. ピアサポーター(6) 5. 連携(5) 6. 新しい視点(4) 7. ムービー(2)	1. ピアサポーター(3) 2. ロールプレイ(2) 3. 事業所について(2) 4. 仕事のあり方(2) 5. 演習の時間が長い方がいい(1) 6. 看護師に研修が必要(1) 7. 具体的なテーマ(1) 8. 現場の課題(1) 9. スタートの方法(1)
--	--

全体をとおして

■役に立ったこと（48）

■より詳しく知りたい内容（23）

1. 他の職種の意見・立場の理解・想いの共有(22) 2. 日頃の仕事の再認識(11) 3. 連携づくりに役立った(4) 4. 地域移行のポイント(4) 5. 地域の中での連携・関係づくりの大切さ(3) 6. 新たな気持ちで努力したい(3) 7. 研修の必要性(1)	1. 他職種の話(3) 2. ピアサポーター(3) 3. シェアリングの時間を増やす(2) 4. 事例(2) 5. 病院の在り方(2) 6. 用語の解説(2) 7. 地域住民の理解(1) 8. 地域包括ケアシステム(1) 9. 家族支援(1) 10. 感謝(1) 11. 権利擁護(1) 12. 実際の映像や体験や事例(1) 13. 退院支援意欲の向上(1) 14. 連携(1) 15. ロールプレイ(1)
---	---

(2) 講義1：精神障害者の地域移行をめぐる動向①～精神科医療の現状～

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（44）

1. 現状・動向・これからの方向性など(26)
2. 入院患者の状況(10)
3. 勉強になった・ためになった(3)
4. リフレーミング(2)
5. 退院後のイメージについて(2)
6. 地域移行機能強化病床の基準(1)

■より詳しく知りたい内容（20）

1. 具体的な支援方法(4)
2. 背景や歴史(3)
3. 現状の把握(2)
4. 現場の課題(2)
5. 身近な地域の現状(2)
6. 機能強化病院について(2)
7. 高齢の精神障害者(1)
8. 今後の動向(1)
9. 情報の活用方法(1)
10. 対象者について(1)
11. 地域移行の必要性(1)

■役に立ったこと（44）

1. 現状・動向・これからの方向性など（26）

- 地域移行がなかなか進まない現状。（事業所）
- 近年の動向をあらためて知ることができた。（事業所）
- 精神科医療の現状について整理した情報が聞けて良かったです。（事業所）
- 地域側で仕事をしているので、医療をめぐる現状をわかりやすく説明して頂けて理解しやすかった。（事業所）
- 1年以内に退院する方が増える一方で、長期入院の形で病院にとどまる人達が少なくない現状があることがわかった。（事業所）
- 動向がまとめられており、整理することができた。（事業所）
- 動向について再認識できた。（事業所）
- データ等。（事業所）
- 現状、自分たちがどのような状況で働き、どういう方向を向いているか学ぶことができた。（病院）
- 現状を改めて理解する。（病院）
- 地域移行の流れ、精神科の現状、地域社会資源の役割など。（病院）
- 精神科病院の動向が分かってよかったです。（病院）
- 過去から現在の精神科医療の流れを改めて考えることができました。また長期入院者の退院支援について、病院だけで抱え込むのではなく、地域を巻き込んでいくことをもっと意識していければと思いました。（病院）
- 地域移行をすすめるにあたり、現状を知れてよかった。（病院）
- 現状を知れたこと。（病院）
- 精神科医療をめぐる現状は理解できたように思います。10年前知った当初は各病棟にノルマがあり、そのノルマの患者様対象を支援し退院させていた。10年経過して長期入院患者様の高齢化が進んでいるため、身体合併症により退院できなかつたり、亡くなつたりしているケースも多いのが現状ではないかと思う。（病院）
- 現状の患者様の動向を数字でしっかり理解できたこと。（病院）
- 精神保健福祉施策についての課題（10年前の目標が未達成であること）や実際の動向がわかった。（病院）
- 長期入院者の地域移行について、動向と将来像、ビジョン。（病院）

- 精神医療の動向について改めて学ぶことができた。(病院)
- 精神科医療の現状(グラフより)。(病院)
- 長期入院精神障害者の地域移行の流れと主な方策。(病院)
- 大筋の国の方向性を復習できた。(病院)
- 歴史をふまえた上で、国や地域がどういう思いで動いているか知ることができました。(病院)
- 厚労省が今後検討していること(自立生活援助等)について、知ることができ、今後の動向についてアンテナをはっていきたいと思いました。(病院)
- 数値を知ることが出来た。(病院)

2. 入院患者の状況(10)

- 入院患者が高齢化し、認知症が増えてきていること、死亡の退院が増えてきていること。(その他)
- 長期入院患者さんが高齢化している現状を知ることができた。(事業所)
- 新たな長期入院者を生まない取り組みの必要性を再認識した。(事業所)
- 自分の地域の精神科病院にどれくらい長期入院者がいるのか、わかる仕組みを作りたいと思いました。(事業所)
- 改めて、入院が長期化してしまう方が居て、統計的にも裏打ちされたデータが蓄積されていて、その現実を知ったことがショックでしたが、現実を直視しなくてはいけないので、受け止めたいと思いました。(事業所)
- 1年以上の長期入院精神障害者のうち4割が、基盤を整備する事で地域生活が可能であると示唆されていると知り、支援体制の強化を再認識した。(病院)
- 長期入院者の数や、制度が始まってからの数について知ることができた。(病院)
- 入院患者の年齢層が高くなっているのは、実感として感じていたため、統計的にもあてはまっていると感じた。病院内だけで解決しようと思わない。地域に答えがあることもあるという言葉が印象に残りました。(病院)
- 地域移行の現状と長期入院患者についての現状を知ることができました。(病院)
- 入院している方の現状を知り、少しずつ(退院支援)地域移行支援は進みつつあるが、社会の状況も大きいことがあった。(病院)

3. 勉強になった・ためになった(3)

- 基本的なことの振り返りと深めにつながった。(事業所)
- 大変勉強になった。(事業所)
- 地域援護者も必ず理解しておく必要がある内容でした。(事業所)

4. リフレーミング(2)

- リフレーミングによって見方を変えてみる、という考え方が大切だと思った。(事業所)
- 精神障害者の障害特性や支援のポイントについて改めて確認できました。考えが偏りがちになるので、常にリフレーミングを意識していきたいと思いました。(病院)

5. 退院後のイメージについて(2)

- データ。退院して生活するイメージの持てない人が外の生活を経験することで、自信がつくという話。(病院)
- 退院後の生活イメージが持てないことで、退院に対してのポジティブイメージが抱けないという話。(病院)

6. 地域移行機能強化病床の基準(1)

- 改めて地域移行機能強化病床の基準について知れたこと。(事業所)

■より詳しく知りたい内容（20）

1. 具体的な支援方法（4）

- 国の施策で長年閉じ込められてきたのに、近年地域に出て行こうと言われても戸惑うのはもっともな事。行政・制度は整ったように見えるかもしれないが、地域の理解はまだまだ偏見に満ち溢れている。支援者ががんばって地域に出したくても、資源の少なさ、地域が受け入れてくれなければ、前に進めない。地域に協力してもらう為の工夫はどんな手立てが必要なのか？開拓方法の検討、インフォーマル支援がもっとも必要とされるのは3障害の内、精神だと思う。（事業所）
- 退院意欲が喚起されていない精神障害者への段階的な支援方法。（病院）
- 地域移行についての流れをもっとイメージできるように具体的に。（病院）
- より具体的な申請方法や活用（社会資源等）方法。（病院）

2. 背景や歴史（3）

- もう少し精神医療の歴史について聞きたかったです。（事業所）
- 数値的な部分だけでなく、現状に至る社会的な背景や要因を詳しく知りたい。（事業所）
- これまでの歴史について、もう少し詳しく知りたい。（病院）

3. 現状の把握（2）

- 精神保健、医療福祉の動向が良くわかった。（事業所）
- 最新の現状を知り、運営を考える上で重要であった。（病院）

4. 現場の課題（2）

- 医療の現場が抱えている課題等も共有出来ればと思います。（事業所）
- 退院支援を行う上での課題となっているもの。（病院）

5. 身近な地域の現状（2）

- 愛知県には、長期入院者がどれだけいて、地域移行のサービスを使い、何人ぐらい地域生活をしているのか。（事業所）
- 身近な地域での患者数や相談件数等の推移・現状。（病院）

6. 機能強化病院について（2）

- 機能強化病棟についてもう少し知りたかった。（事業所）
- 地域移行機能強化病棟の実態。救急・急性期病棟開設のため、長期入院患者の減を実施した病院の取り組み（期限を切った病床削減、長期入院者退院の試み）。（事業所）

7. 高齢の精神障害者（1）

- 高齢の精神障害者の退院支援の取り組みについて。（事業所）

8. 今後の動向（1）

- 障害特性の所は今回の参加者（ほぼ精神障害者支援にかかわっている）に必要か？H30 改正のことや、今後の見込みも含めもう少し詳しく。（病院）

9. 情報の活用方法（1）

- 統計として出ている数字を、ネガティブな情報としてではなく、ポジティブなエネルギーに変えていくための視点、考え方を学んでみたいです（これは研修というより、自分がどう解釈するかの問題だと思います）。（事業所）

10. 対象者について(1)

- 「重度かつ慢性」について。(病院)

11. 地域移行の必要性(1)

- 相談支援事業所の側からすると、これまでの精神保健福祉なども知らない方が多いと思われます。
「なぜ地域移行が必要なのか？」がもっと伝わると良いと思います。(事業所)

(3) 講義2：精神障害者の地域移行をめぐる動向②～地域移行支援について～

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（47）

1. 法律・制度・動向など(17)
2. 各機関の役割・課題(13)
3. 地域移行の現状と課題(8)
4. 自分の仕事の再認識(5)
5. 事業の目的の再確認(2)
6. 地域移行のプロセス(2)

■より詳しく知りたい内容（21）

1. 事例の紹介(4)
2. 自立生活援助(3)
3. 事業運営の方法(採算など)(3)
4. 介護保険とのかかわり(1)
5. 具体的な活用方法(1)
6. シェアリングの時間が短い(1)
7. 世界的動向との比較(1)
8. 体験談をいれてほしい(1)
9. デイケアについて(1)
10. 用語の解説(2)
11. 連携(1)
12. 自立支援協議会(1)
13. 地域生活支援拠点の創出(1)

■役に立ったこと（47）

1. 法律・制度・動向など（17）

- 総合支援法の新しいサービスについて。(事業所)
- 相談支援の役割を深めていくことと、ピアサポーターについて深めることが出来た。(事業所)
- 制度について、とても解りやすかったです。自分の中であやふやだったことがしっかり理解できました。(事業所)
- 地域移行の流れが理解でき、新しいサービスの「自立生活援助」について知ることができた。(事業所)
- 障害者福祉の最新情報等、勉強になりました。(事業所)
- 行政、法整備の流れからの動向を知ることができなかった。(事業所)
- 制度の説明が分かりやすく、自身達が普段行っていることの裏付けをもらえるようで、自信に繋がった。(事業所)
- 計画相談の現状が良くわかった。(病院)
- 障害者の相談支援体系を学び、支援内容がわかりやすくなった（計画作成担当、地域移行、定着担当など）。(病院)
- 総合支援法のことを知れたのが良かった。(病院)
- 障害者の相談支援体系についてと、ピアサポート活動の考え方についての話。(病院)
- 地域移行支援には OTR、看護、PSW、医師、福祉の連携が必要なことを感じた。「障害者」の相談支援体系のしくみを知ることができた。入院中からその人が望んでいる生活を意識して連携して関わらなければいけないと痛感した。(病院)
- 申請について。(病院)
- H30 改正の内容、地域の実情と市内院側の姿勢。(病院)
- 現状について、必要なこと、知識について学ばせていただきました。(病院)
- 制度に沿った視点を再確認できた。(病院)
- 地域相談支援（地域移行・地域定着支援）の内容を知れた。(病院)

2. 各機関の役割・課題（13）

- 各支援の役割について問題喚起して頂き（委託か個別給付の役割をしない etc）、改めてそのあたりの認識も意識した支援のくみ立てを考えていかなければと気付きを得る話でした。（事業所）
- 自立生活援助の取り組みについて、そうした流れがあることを知らなかったのが良かった。病棟は院内のこと、地域は生活に必要なことの調整を、というお話を聞いて、現在退院支援における病院の役割が大きくあることを改めて感じた。（事業所）
- 自立生活援助など、新たな動向がわかった。病院ワーカーと相談支援事業所ワーカーとの役割が重複してしまいがちなため、「役割分担」が理解できた。（事業所）
- 地域移行支援における委託相談支援事業所の役割。（事業所）
- 自立生活援助が具体化できるよう、準備を進めていきたいと思いました。ピア活動の次の展開をきくことができました。地域移行の専門員の配置も考えていくこと。（事業所）
- 地域移行支援の事業所はどんな役割を果たしているのか、機能説明頂いたことで、具体的なイメージがわかりました。また、国の動きや、地域の実情を知れたことで、よりお互いの立場を理解した上で連携が図れるのではないかと思います。（病院）
- 地域の事業所に退院支援の協力を求められるということを知ることができたことです。（病院）
- 制度や地域移行支援に関する事業内容については、理解しているつもりですが、自分を入院中の当事者になったと想定して、そこから見える支援者の役割について、改めて気付かされました。（病院）
- 地域の立場からの話を聞く機会があまりない為、新鮮でした。青・赤・黄の違いがわかりやすかったです。（病院）
- 現状を知ることができた。地域移行支援を行っている場所（相談支援事業所）を知ることができた。（病院）
- 事業所のかかえる問題、役割など分かり易かった。（病院）
- 医療機関の役割（1年以内のPTを対象に）。（病院）
- 相談支援事業所の現状や抱える課題を知れたこと（人員・加算・体系等）。（病院）

3. 地域移行の現状と課題（8）

- 地域移行の現状。（病院）
- 地域移行の現状とこれからについて知れたこと。（病院）
- 実際の動きが自分を振り返りつつわかりました。（病院）
- 現状や経験等。（事業所）
- 1年以上の長期入院の精神障害者のうち約4割は地域移行が可能であること。（その他）
- 自分が見ている側からしか見えていなかった事。少しの工夫で別の見方もできるという事が一番印象的でした。HPから協議会に「10人退院」と言ってもらおうという話もです。（事業所）
- 60床なら15人中自宅3人、GH1人、高齢施設2人・・・という数。青・赤・黄の相談機関のイメージ図。（事業所）
- 病院への働きかけ方（1年で〇人退院させたい）。（事業所）

4. 自分の仕事の再認識（5）

- 使っているサービスへのモニタリングではなく、生活全体をみることだという言葉がはっとさせられた。（事業所）
- 自分のやるべきこと、やらなければならない事を強く思う。（事業所）
- 1ケースに携わろうとすると金銭的に大変だが、10ケース同時に取り組んでしまうと成り立ってしまうという考え方。（事業所）
- 普段、ケースの中でその場その場で学んでいることをじっくりと知ることができた。（病院）
- 地図の話はかなり刺激的でした！当事者の立場に立って考えることを再確認できた。（病院）

5. 事業の目的の再確認（2）

- 歴史的な背景から施策としての必要性を認識できた。（事業所）
- 事業の目的を再確認することができた。（病院）

6. 地域移行のプロセス（2）

- 地域移行のプロセス。（病院）
- 地域移行のプロセスなど再認識できました。（病院）

■より詳しく知りたい内容（21）

1. 事例の紹介（4）

- 具体的な事例など。（事業所）
- 事例を通しての具体的な動きも加えていただけると、理解しやすいのかなと思いました。地域の支援者に病院の中に入ってもら。育てつつ、長期入院者を地域へという所で個別給付の枠組みの中、具体的にどんな方法があるのか知りたいです。（病院）
- 相談支援体系について、イメージがしやすいように事例等をまぜて話が聞けたら良かった。（病院）
- 地域移行支援を利用して、うまく支援ができた（できなかった）事例について。（病院）

2. 自立生活援助（3）

- 自立生活援助の詳細等も今後勉強していきたいと思います。（事業所）
- 自立生活援助の取り組みについて知りたい。（事業所）
- 自立生活援助について。（事業所）

3. 事業運営の方法（採算など）（3）

- 今回の研修テーマからははずれると思いますが、計画相談の量的確保を達成した市町村の委託相談と計画相談の実施状況。相談支援事業所が存続していくための事業モデル、委託相談なしで相談支援事業所の経営が成立するのか。（事業所）
- 地域移行に（指定一般として）取り組みつつも、運営的に赤字にならずに事業を展開する方法。また、収支の考え方などを聞いてみたいです。（事業所）
- 実際地域からは制度にのせるメリットはうすいとの声がありました（年間の割には報酬が少ない、制度を使わなくても地域移行できる）。制度利用を進めるための工夫等があれば知りたいです。（病院）

4. 介護保険とのかかわり（1）

- 65才以上の方が長期入院者が多いので、包括との関わりについて。（事業所）

5. 具体的な活用方法（1）

- 講義1同様、具体的な活用方法。（病院）

6. シェアリングの時間が短い（1）

- 全体的にシェアの時間が短く感じました。話し合うテーマをもう少し具体的にしてもらった方が、話しやすかった印象がありました。（病院）

7. 世界的動向との比較（1）

- 独自の歴史・ペースで進んできた精医を今後日本としてどうしていこうと考えているのか。世界との比較。その他障害（身・知・児・高）との足並みの揃え方とは？（事業所）

8. 体験談をいれてほしい（1）

- もっと経験談を入れてほしい。（病院）

9. デイケアについて（1）

- デイケアの位置づけ。（病院）

10. 用語の解説（2）

- 同グループ内には、病棟 NS もおり、PSW には聞きなれた制度や語句でも、イメージがつきにくいようでした。（病院）
- 講義 1・2 とともにですが、看護師は福祉についての知識が薄いので、言葉の解釈が難しいと思いました。誰にでもわかるような言葉の選択をお願いしたいです。（病院）

11. 連携（1）

- 退院を患者にだけにしぼって実践したが、行政との関わりがいかに患者にとって重要かを知った。（病院）

12. 自立支援協議会（1）

- 自立支援協議会で、地域開拓していく方法とは、行政と地域の相談事業所の市民とをつなぐ基幹の役割。モデルになる他市・他県の取り組みは？交流会など。（事業所）

13. 地域生活支援拠点の創出（1）

- 地域生活支援拠点について。特に居住の保障、宿泊体験のできるグループホームの創出についてなど。（事業所）

(4)講義3：体験談から地域生活について考える

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（49）

1. 自分の仕事の再認識(11)
2. 感動した、よかった(9)
3. 当事者の目線からの話(9)
4. 生きた意見を聞けた(4)
5. ピア活動の実状(4)
6. 体験の専門家(4)
7. 地域生活の重要性を再認識(3)
8. 活動への想いを理解できた(2)
9. 当事者の生活の様子を知ることができた(2)
10. 当事者の力(1)

■より詳しく知りたい内容（32）

1. ピアサポーターの声・体験談(4)
2. 当事者として支援者に求める事(4)
3. ピアサポーターと一緒に働くスタッフの意見(3)
4. 当事者がかかわる時間は大切である(3)
5. ピアサポーターを活用している事例(3)
6. 実際の地域生活について(2)
7. ピアサポーターが求めている支援(2)
8. ピアサポーターとしてどのような支援や活動の希望があるか(2)
9. ピアサポーターの実状(2)
10. 自分の地域にあう活動(1)
11. 退院までの流れ(1)
12. 実際の活動の写真など(1)
13. ピアサポーター受入れのしくみ(1)
14. ピア活動の発展を学びたい(1)
15. やろうと思えるきっかけ(1)
16. もっと時間がほしかった(1)

■役に立ったこと（49）

1. 自分の仕事の再認識（11）

- 「別の視点から見る」ということを、経験させていただいた。(病院)
- 当事者の体験談を聞き、退院時の情報提供の大切さ、医療従事者としてどこを支援すべきか、継続した地域での支援体制の必要性を再認識した。(病院)
- 前向きにとりくむ環境と気持ちが大切だと気付いた。(病院)
- ワーカーは、患者さんの命・暮らし・生きがいを支援するということが再認識できました。(病院)
- 精神科病棟で入院を経験したことのある方のリアルな声は、自分が仕事に取り組むための「やる気」に繋がりました。(病院)
- お二人とも、病気になったことの辛さや入院中に出会った長期入院の方のことなど、自分の言葉で強く訴えておられて、心に響きました。自分が関わる当事者の方々の声なき声にも、きちんと向き合うことを忘れてはならないと思いました。(病院)
- 普段のスタッフの関わりを思い出し、病床業務に患者様が合わせてくれている実態を痛感しました。(病院)
- 話を聞いて胸が痛くなりました。現在長期入院している患者様の本音が聴けているのか？長期になっている理由かチャンスはあったはず。外の環境を知らないため、意欲も出て来てないのではないか？もっとその人が望んでいる事に耳を傾け連携して取り組んでいきたいと思った。(病院)
- 当事者の話はとても参考になりました。看護者として反省することも多く、対応について考えさせられました。辛い体験を話して下さった事に感謝します。(病院)
- 当事者が役割を持てる場を作っていくこと。自分史から当事者の立場に置きかえて想像し、自分の支援を点検していきたいです。(病院)
- 自分の人生の役に立った。(病院)

2. 感動した、よかった (9)

- 経験者として感じた世界を、客観的に言語化して伝えて頂き、普段の自身の受けとめの深度をはかることができました。(事業所)
- 全てのお話が胸を打つ内容でした。ありがとうございます。(事業所)
- 当事者の言葉には重みがあると改めて感じた。(事業所)
- サービス利用のための面接ではなく、自由に語られることを聴くことの大切さ。(事業所)
- どのようにここまでがんばって来られたのか、気持ちや頑張ったきっかけなど話が聞くことができてとても良かったです。(病院)
- 実際の体験したこと・想いなどを聞けて、感動と学びになりました。(病院)
- ご本人の口から聞けたことは感動した。対象にとっても良い影響を与えると感じた。(病院)
- 当事者の方が伝えることの響き方の差は大きいと思いました。また、やりたい事が言える(自発)ことと、それをサポートできる環境がステキだと思いました。(病院)
- 当事者の体験談は胸に響くということ。(病院)

3. 当事者の目線からの話 (9)

- シェアリングで精神障害者は従順な人が多く、入院中おとなしく言うことを聞いていることを求められていたこと。(その他)
- 体験談から地域生活を考える。入院中の患者さんの気持ちを知ることができた。精神科病院は船、退院は陸地に上がるようなもの、というお話を聞いて、はっとさせられました。患者さんにもっと地域の情報が届けられるような仕組みづくりが必要だと感じました。(事業所)
- 退院意欲の喚起という言葉が失礼になるというのが印象に残っています。(事業所)
- 入院されている方の実際の目線から話を聞くことができ、入院と地域の日常がかけ離れていることを再認識できた。(事業所)
- 当事者の辛さや乗り越えた時の気持ちを感じることができた。(事業所)
- 孤独になる自由もあるということ。本人が求める生活イメージが幅広いこと。(病院)
- 入院中の気持ち、ENT 後の気持ちや困った事など、なかなか聞くことができない本当の気持ちを聞く事ができた。つらい気持ちや前向きな思い等が聞けたこと。(病院)
- 入院中の患者が地域生活のイメージがしにくいことを知れた。(病院)
- ピアの視点での話して良かった。(事業所)

4. 生きた意見を聞けた (4)

- 生の声を聞けた事「地域での生活っていいよ」と病院内で出会う方に伝えているという事。誰よりも説得力があると思いました。(事業所)
- 生きた声を聞けた事。(事業所)
- 生の意見を聞く事ができた。実体験を聞く事ができて良い。(病院)
- 当事者の生の声が聞け、関わり方について考えることが出来た。(病院)

5. ピア活動の実状 (4)

- ピア活動の種別について、とてもわかりやすかったです。(事業所)
- ピアへの取り組み、取っ掛かりがなんとなく見えた。取り組みたい、なんとかしたい、なんとかなりそう。(事業所)
- ピアサポート活動の誕生、成長を学ぶことができました。(事業所)
- ピアの役割や意識など。(病院)

6. 体験の専門家 (4)

- 「体験のスペシャリスト」「一家の事のなのに、夫妻子・・・とそれぞれに関係機関がかかわり、チームとなっているので、それぞれのチームをまとめる人がいない」。(事業所)
- 体験の専門家という言葉が印象的だった。(事業所)
- 体験の専門家という言葉が印象的でした。院内でピアの活動をするメリットが聞けてよかった。(病院)

- 病院は船のようなもの。ピアサポーターは体験の専門家。障害があっても人の役に立ちたいと思う気持ちは同じ。といった当事者からのメッセージ。(病院)

7. 地域生活の重要性を再認識 (3)

- 体験談を聞くことで、より地域移行は当たり前の権利で、本人の責任ではないと考えさせてもらった。(事業所)
- 生き生きとした利用者さんが普通の生活になるようにしたいと思った。(事業所)
- 当事者が感じること、気づくこと、全て重みのある貴重なお話でした。病院という閉鎖された環境で、どんどん退院をあきらめてしまうような場ではなく、地域生活の魅力、本人らしい生き方を一緒に探していく姿勢を、支援者は忘れず働きかけていく必要があると思いました。又、今後どんな場で活動してみたいか等も気になります。(病院)

8. 活動への想いを理解できた (2)

- どのような想いで普段活動されているか、理解することができた。(事業所)
- ピア活動の当事者の話を直接聞いたこと。(事業所)

9. 当事者の生活の様子を知ることができた (2)

- 地域でやりがいを持って充実して生活していることが知ることができた。(事業所)
- 地域で自己決定をしながら生活する実態を知る事ができた。(病院)

10. 当事者の力 (1)

- ピアサポーターの話を聞き、改めて弱者ではなく、得手不得手のある一人の人が生きる為に、それぞれが出来る事をやっていく。(病院)

■より詳しく知りたい内容 (32)

1. ピアサポーターの声・体験談 (4)

- ピアスタッフとして働く人たちの話。(事業所)
- 当事者の方の生の体験発表が聴けて良かった。(事業所)
- 実際のピアサポーターとしてされている事、様子、体験をより深く知りたい。(病院)
- ピアサポーターの体験談をもっと多くのスタッフに聞いてもらいたい。この時間だけ公開講座にしてほしいと思いました。(病院)

2. 当事者として支援者に求める事 (4)

- 入院中や現在の生活の中で「こういう関わりが欲しかった」等、ストレートに意見も聞いていければと思います。(事業所)
- お二人も話しておられましたが、リカバリーのきっかけや、どんな支援を必要としているかなどの当事者の想いを聞けると、今後の支援の参考になると思います。(病院)
- 入院中 ENT 後にしてもらいたかった事、してもらって良かったと思えたことを知りたい。(病院)
- 自主性を伸ばす支援の仕方 (PT の視点からスタッフへアドバイスなど)。(病院)

3. ピアサポーターと一緒に働くスタッフの意見 (3)

- ピアスタッフとどう協働していくのか。(事業所)
- ピアサポーターと一緒に、支援しているスタッフからの声も研修に入れてほしい。(病院)
- この場では話しづらいかもしれないが、スタッフ側としてどういった点に配慮してピアサポートのサポートをしているか知りたい。(病院)

4. 当事者がかかわる時間は大切である（3）

- 今後の研修においても、当事者が関われる時間があると良いと思います。（事業所）
- 研修に中々参加できないスタッフ（病棟が忙しくて抜けられないNS など）にも聞く機会を持てれば……。 （病院）
- お二人の話は、看護者にとっても聴いてほしい内容でした。出来ればオープンで行ってもらえたらと思いました。（病院）

5. ピアサポーターを活用している事例（3）

- ピアサポーターの養成、活用がうまくできている地域の例。ピアサポーターが取り組んでいる内容をもう少し具体的に知りたい。（事業所）
- ピア活動をスタートさせるときのきっかけ、何を起点にできるのか、成功例。（事業所）
- 当院でもピアサポーターのように患者さんが役割を持ち、患者さん同士の支援（DC メンバーが病棟で話をする等）について考えられると良いと思います。（病院）

6. 実際の地域生活について（2）

- それぞれの地域生活についてもっと知りたい。（病院）
- 実際にどういう生活を送っているのか、具体的に知りたい。ピアの活動をする前と後との変化等。（病院）

7. ピアサポーターが求めている支援（2）

- ピアサポーターとして活動するやりがい。支援者に求めること。（病院）
- 実際にピアサポーターへの支援など（自分の所属でも育てていきたい）。（病院）

8. ピアサポーターとしてどのような支援や活動の希望があるか（2）

- ピアサポーターの方がどのような活動を希望しているのか、ピアサポーターの視点からのお話が聞ければと思います。（事業所）
- 活動中でのやりがいやしんどいこと、支援者に求めることなど具体的に聞きたいと思った。（事業所）

9. ピアサポーターの実状（2）

- ピアサポーターの実情。（病院）
- ピアサポートの有効性について（実績を知りたい）。（病院）

10. 自分の地域にあう活動（1）

- 自治体によって少し形が違うので自分の地域ではどうあてはまるのかと思った。（事業所）

11. 退院までの流れ（1）

- 時間をかけて退院の流れなどを聞きたい。（事業所）

12. 実際の活動の写真など（1）

- 実際の活動の写真などあれば、よりイメージが湧いたと思う。（事業所）

13. ピアサポーター受入れのしくみ（1）

- ピアのメンバーを仕事として対価を受け取る同じ労働者をスタッフとして受け入れる仕組み。（事業所）

14. ピア活動の発展を学びたい(1)

- 今後のピア活動の発展を学びたいと思いました。(事業所)

15. やろうと思えるきっかけ(1)

- やろうと思えるきっかけの話。(病院)

16. もっと時間がほしかった(1)

- もっと時間があっても良かったかなと思います。(事業所)

(5) 講義4：地域移行推進における関係機関・関係者の役割

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（50）

1. 機関の役割を理解できた__全体(28)
2. 機関の役割を理解できた__行政(7)
3. 機関の役割を理解できた__保健所(3)
4. 機関の役割を理解できた__ピアサポーター(1)
5. 職種の役割を理解できた__全体(5)
6. 職種の役割を理解できた__作業療法士(1)
7. 実際にできていないことのギャップ(2)
8. 家族とのかかわり(1)
9. 機関の役割を知る事の必要性(1)
10. 自身の役割の再認識(1)

■より詳しく知りたい内容（21）

1. 各機関の役割(6)
2. 基幹型相談支援センターの役割・事例(3)
3. 病院経営との関係(2)
4. 推進チーム(2)
5. 連携(2)
6. 保健所の取り組み(1)
7. シェアリングの時間の確保(1)
8. 在宅サービス(1)
9. 具体的な地域の例(1)
10. 機関ごとの取り組みの流れ(1)
11. ピアサポーター(1)

■役に立ったこと（50）

1. 機関の役割を理解できた__全体（28）

- それぞれの機関別に役割を説明してもらえたので、自分の機関だけでなく、他の機関の役割も理解できた。（その他）
- 関係機関の役割を改めて整理、理解出来ました。資料をもとに共有も深めることが出来ました。（事業所）
- 役割が明確に書かれていたので、連携する際にイメージしやすいと思いました。自分の立場で、何ができるのか、今しているのがどの部分なのか何のためにしている事なのか、再確認することができた。（事業所）
- 具体的な話で実際自分が支援するなかで感じたこともあり、再確認出来た。（事業所）
- 各職種の役割を改めて整理してもらい良かったです。（事業所）
- 院内の役割など、曖昧だったことが知れてよかった。（事業所）
- 各機関の役割がよくわかりました。（事業所）
- 職種や機関別の役割が理解できた。（事業所）
- それぞれの役割が明確になった。（事業所）
- 地域援助事業者ですが、改めて各機関の役割が整理できました。（事業所）
- 病院にいと（特に看護師は）関係者機関の役割をはじめて知り、PSW と NS と活動の幅を広げる知識を得た。（病院）
- 役割がまとまっていてわかり易かった。（病院）
- 各機関・関係者の役割を知ること、それぞれの現状の課題を理解することができた。（病院）
- 各機関・専門職の役割を改めて確認できた。（病院）
- それぞれの立場の役割がわかってよかった。（病院）
- 身近な関係機関の役割について、分かっているようで知らなかったことも多く、勉強になった。（病院）
- 地域の関係機関の役割が、イマイチ分かりませんでしたが、分かりやすくまとめられていた。（病院）
- 入院患者さんに地域移行支援を受けられることを周知することから始めたいと思います。（病院）
- それぞれの役割、機能を再確認できたこと。（病院）
- それぞれに求められている役割の再確認ができて良かったと思います。（病院）

- 各関係機関の役割が担当別に 62 人これていたこと。(病院)
- それぞれの職種の目的や役割をわかりやすく説明していただき、理解できた。それぞれの職種が役割を発揮して協力していかないといけないと地域移行支援につながらないと思った。(病院)
- それぞれの機関について詳しくあり、とても参考になりました。(病院)
- 関係機関の役割が分かった。(病院)
- 機関の役割。(病院)
- それぞれの機関の役割の再確認ができたこと。(病院)
- 各機関、各職種の役割が整理できた。(病院)
- 役割についてよくわかった。(事業所)

2. 機関の役割を理解できた__行政(7)

- 行政の役割を考える機会になった。(事業所)
- 市町村や病院関係者の役割が具体的にわかった。(事業所)
- 市町村の必須計画等を思い出しました。(病院)
- 地域移行を行うにあたって、行政もまきこんでいく必要がある。(病院)
- 地域移行推進は、多くの職種が協働して行政中心にすすめていくこと。(病院)
- 関係機関(特に行政)の役割の違いが分かり良かった。その他の関係者の役割も分かりやすかった。(病院)
- 今まで漠然としか分かっていなかった市町村の「仕組み」について知ることが出来た。(病院)

3. 機関の役割を理解できた__保健所(3)

- 保健所の役割がイメージできました。(事業所)
- 保健所の役割がわからなくなってきているので、整理ができました。(事業所)
- 保健所と市町村の役割の違い。(病院)

4. 機関の役割を理解できた__ピアサポーター(1)

- 一つ一つの機関のことがよくわかりました。ピアサポーターの役割が重要だと思いました。(事業所)

5. 職種の役割を理解できた__全体(5)

- 地域移行に関わる職種の役割を知ることができて良かった。資料を追う中で OT さんや病院の PSW で知らなかった所を知ることができた。(事業所)
- 職種別の役割が分かりやすかった。(事業所)
- 医療の役割が細かく、職種ごとで整理されていた。(事業所)
- 各職種の役割や立場などを理解することができた。(病院)
- 役割の整理ができた。(病院)

6. 職種の役割を理解できた__作業療法士(1)

- 機関ごと、職種ごとの役割がとてもわかりやすかったです。作業療法士に求められていることが大変参考になった。(病院)

7. 実際にできていないことのギャップ(2)

- 行政から病院・地域等、各機関の役割を改めて確認できたことが良かったです。又、共有できたことで、相互理解にもつながったように思います。「役割」として定められているが、実際にできていないこと、葛藤についてシェアリングできたのも良かったです。(病院)
- 実際に行っていることと、していると思われるギャップがおもしろかった。(病院)

8. 家族とのかかわり（1）

- 家族の協力の仕方・・・時代とともに質・カラーがどんどん変化。精医も時代の変化に合わせていく必要性あり。（事業所）

9. 機関の役割を知る事の必要性（1）

- 病院内のことしか知らなかったのも、まず外に目を向けることが必要とわかったこと。（病院）

10. 自身の役割の再認識（1）

- 他職種、他機関はもちろんのこと、自身の役割を再認識できた。（病院）

■より詳しく知りたい内容（21）

1. 各機関の役割（6）

- 関係機関を図で示していただけるとイメージしやすいと思いました。（病院）
- 介護支援専門員や、退院支援部署についての話。（病院）
- 各機関がそれぞれに求める役割があれば聞いてみたいです。（病院）
- 「症例を通した研修」各機関・関係者の役割をさらに明確にしたい。（病院）
- 各機関の役割を改めて確認できた。特に基幹は市町村によって活動が様々なので、基本を学べて良かった。（事業所）
- 役割を踏まえた上で、更に各機関の現状も共有できるセッションもしていきたいです。（事業所）

2. 基幹型相談支援センターの役割・事例（3）

- 基幹相談支援事業所等、地域の相談機関同士の関係。（病院）
- 基幹型相談支援センターが中心となって行っている地域移行支援を知りたい。（事業所）
- 各地域の基幹センターの役割がどう設定されていて、どう地域移行に関与しているのかを聞いてみたい。（事業所）

3. 病院経営との関係（2）

- ちょっと理想的すぎて・・・診療報酬のからみ、経営とのからみでとてもあんなに多職種でかわれない。（病院）
- 地域移行を進めることが病院経営に貢献するということ。（事業所）

4. 推進チーム（2）

- 市役所へ相談してどうチームをつくったりしてくれるのか、例がもう少しほしい。（病院）
- 地域移行推進チームの典型例。（事業所）

5. 連携（2）

- どのように連携していくか考えたい。（病院）
- それぞれの機関が役割を発揮できるような連携のあり方。現在まきこんでいない機関をどうすれば地域移行の取り組みに参加してもらえるか等のコツ。（事業所）

6. 保健所の取り組み（1）

- 保健所でも、取り組み内容に差があると思います。その理由。（事業所）

7. シェアリングの時間の確保（1）

- シェアの時間がもう少し欲しいと思いました。（病院）

8. 在宅サービス（1）

- 在宅のサービス（ヘルパー、訪看等）の働きについてもあれば良かったです。（病院）

9. 具体的な地域の例（1）

- 堺市の事を具体的に知りたい。（病院）

10. 機関ごとの取り組みの流れ（1）

- 地域移行にむけて、役割をいつまでに行うか等、時系列のバスのような目安があるとわかりやすいと思った。多職種・多機関で関わることのメリットやデメリットを現場レベルで共有する時間があれば良い。（事業所）

11. ピアサポーター（1）

- ピアサポーターとして活動している（地域移行に携わっている）方の話も聴きたい。（事業所）

(6) 講義5：退院意欲を取り戻すための支援

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（52）

■より詳しく知りたい内容（13）

1. 支援者があきらめてはいけない(12) 2. 利用者さんの気持ちの大切さ(9) 3. いろいろな視点・方法が参考になった(8) 4. 自分の仕事の再認識(6) 5. 重要なポイントがある事を知った(5) 6. 人権侵害であることを再認識(4) 7. 病院での取り組み事例を知った(3) 8. 連携(2) 9. わかりやすかった(2) 10. 病院の課題(1)	1. 事例や体験・経験談(4) 2. 連携(3) 3. 支援のあり方(2) 4. 具体的手法(1) 5. 支援者の意識(1) 6. 病院の課題(1) 7. プログラム(1)
--	--

■役に立ったこと（52）

1. 支援者があきらめてはいけない（12）

- 当事者への関わりだけでなく、支援者（病院スタッフ）への意欲喚起の重要性を感じた。（事業所）
- 長期入院の方の意欲を持つためには、6ヶ月のプランではかなり難しい。1年・2年の取り組みの中で体験しながら、意欲を持ってもらうことが大切である。（事業所）
- 長期入院の方の退院促進には時間がかかる事、しかし支援者としてあきらめてはいけない事を改めて感じました。又、病院のスタッフだけでなく地域の支援者も巻き込んで退院促進をすすめていく事が必要だと感じました。（病院）
- 退院に向けて支援者の関わり方を学ぶと共に、入院中から退院後までスタッフの意欲（あきらめない気持ち）継続も大切だと再認識した。（病院）
- 支援者は最後まで決してあきらめてはいけないということが心に残りました。（病院）
- 支援者が諦めてはいけないことを改めて知ることができた。（病院）
- 地域移行に取り組むために、何から具体的に取れば良いかわかりやすかった。あきらめず本人に声掛けし続けたいと思います。（病院）
- 担当の患者さんたちの顔を思い浮かべて、まだできることがあると勇気づけられました。（病院）
- あきらめず関わる事が大切。2年間も関わりを続けて、変化があった例は参考になりました。（病院）
- あきらめないこと、NS計画での連動で取り組むこと。（病院）
- 支援者があきらめないこと。本人の想いをしっかりと聴けるよう信頼関係を築くこと、他職種との連携の大切さを改めて感じました。（病院）
- 患者さんの退院に向けた思いをどう考えていくだけでなく、こちら支援者側もあきらめず信じて取り組んでいるか考えさせられました。（病院）

2. 利用者さんの気持ちの大切さ（9）

- 退院したくない理由など、利用者目線の話。（事業所）
- 新しい環境で生活することへの不安を自分に置き換えて「転職」するなら、という説明が分かり易く、当事者の不安をより身近に感じられた。（事業所）
- 何がきっかけになるかわからないが「本人がやりたいこと」が一番のきっかけになる。（事業所）

- きちんと視点に立った発想が、講義にもあったが。患者はどのような生活をしたいのかを、アセスメントする技術が必要。(病院)
- 自分が転校したら？という考え方がとても参考になった。本人がやりたいことを聴く、退院支援のために病院でできることという内容が実践的で参考になった。(病院)
- その人らしさを考えることが大切だと感じた。(病院)
- 具体的な方法、患者さんの気持ちを知ることができた。(病院)
- 患者の気持ちに立つという事が再認識出来た。(病院)
- 「退院」そのものではなく、本人のしたい生活の為の過程としての退院について。(病院)

3. いろいろな視点・方法が参考になった (8)

- 時間との向き合いも含め、本人の変化をどういう目的、プランで受け止めていくのかも、支援者として意識して組み立てていかないといけないと改めて思いました。一定の取り組みではみていけない部分であり、常に工夫と評価がいると思いました。(事業所)
- 意欲の引き出し方が丁寧に書かれていたので、わかりやすかった。本人の意向を尊重し、根気良く関わっていくことが大切だと感じた。すぐ退院につながらなくとも、社会資源の見学等やってもらうことが大切だと思った。(事業所)
- 視点の違う見方等、楽しく話を聞かせて頂き、聞きやすかった。(事業所)
- 退院支援意欲の喚起について色々な方の意見が参考になった。(事業所)
- 入院中の患者さんに対して、具体的にどのように動き、声かけをしていくかイメージできた。(事業所)
- 意欲喚起にも色々な方法があるということがわかった。(病院)
- 施設見学だけに終えるのではなく、そこに付加価値をつけることでも(例えば一緒に外食等)意欲喚起につながる。また自立支援協議会のポスター(手紙)が当病棟でも掲示したいと感じました。(病院)
- 現在あるサービスや地域で行っている楽しい活動などを紹介する場があると少しは意欲喚起につながる。(病院)

4. 自分の仕事の再認識 (6)

- 今まででは意欲をもった時点でかかわる事が多い。今後は地域の側としてそこにも関わりたい。(事業所)
- 病院の中の話しではなく、自分にも出来る事がある事や、責任がある事を再確認できた。(事業所)
- 普段感じていることを、まとめることができた。(病院)
- 改めて、取り組む視点や考え方を認識出来た。(病院)
- 退院意欲を取り戻すことについて考えさせられた。(病院)
- 日々の業務を見直し、関わりの姿勢を再確認できた。(病院)

5. 重要なポイントがある事を知った (5)

- イメージ作りを考えることを大切にしたい。より具体的にする。(事業所)
- 導入部分が大事で、委託相談が重要だとわかりました。(事業所)
- 退院支援意欲の喚起は医療・福祉両者に大切だと感じました。(事業所)
- 日常の何気ない取り組みが重要であった。声かけ、日常生活のアセスメント。(事業所)
- 退院支援を始めてから病院でできることの5つ。(病院)

6. 人権侵害であることを再認識 (4)

- 「社会的入院は人権侵害」という事を共通認識を持って病院・地域とで関わっていく事が大切で、その中で「退院したくない」という方への関わりをあきらめずに続けていく事の重要性。1・2回の面会だけで判断はできないので、何度も会って関係を作っていく事が手間はかかっても一番の近道になるのかもしれないと思いました。(事業所)
- 今業務の中でまさに悩んでいる部分です。制約のある生活が当たり前になっている、人権侵害であるということを改めて意識しました。(病院)
- 長期入院は人権侵害という考え方について、自分なりにしっかり考えたいと思いました。(病院)

- いつも感じていることを、他の人も感じていて、それを何とかしようとする事ができると刺激を受けた。(病院)

7. 病院での取り組み事例を知った(3)

- 病棟で本人に退院の意欲を持ってもらうための働きかけについて、努力されていることを知れた。(その他)
- 病院でのきめ細かな取組事例の話が良かったです。(事業所)
- 他 HP の取り組みを知る事ができた。(病院)

8. 連携(2)

- 関係機関との連携。(病院)
- 他職種へ求めていくものが再確認できました。(病院)

9. わかりやすかった(2)

- 意欲喚起、とてもわかりやすかったです。意欲がないわけではない・・・むずかしいテーマだと思います。(その他)
- とてもわかりやすかったです。自分の声かけの方法などを考えてなおしました。(事業所)

10. 病院の課題(1)

- 病院と地域との生活にそもそも差が大きすぎる。「精神病院とはこういうもの」自体概念を変えなければいけないのでは？差が大きい事が当たり前、そのこと自体おかしいと思う。病院内システム、生活スケジュール、ルールなどを地域生活に近いものに緩和していけないのか？(事業所)

■より詳しく知りたい内容(13)

1. 事例や体験・経験談(4)

- 「症例」なども取り入れてほしい。(病院)
- それぞれの経験談を語る時間があるといい。(病院)
- ENT につながった事例紹介や、スタッフの葛藤など知りたい。(病院)
- 退院支援委員会に関係機関を呼ぶ(方法・タイミングなど)事例など知りたい。(病院)

2. 連携(3)

- 地域の事業者がどのように関われるか。(事業所)
- 社会資源について。(病院)
- 地域の機関同士の関係性、横の繋がりなど。(病院)

3. 支援のあり方(2)

- 「退院したくない」という本人の選択権をいかに考えるか。そもそも「したい」か「したくない」かで退院を考えるのか。(事業所)
- 病院内でのクリティカルパスについて。(病院)

4. 具体的手法(1)

- もう少し具体的な実践や手法についても聞きたい。(病院)

5. 支援者の意識（1）

- 長きにわたる地域移行支援の中で、支援者がどのようにモチベーションを保っていくか、各機関の工夫を知りたい。（事業所）

6. 病院の課題（1）

- 時間をかけて薬を自分で飲む。お金を使えるように・・・etc。それを支援でできるようにすることがとても大きなステータスのように聞こえるが、それをしないといけないようになっている病院のシステム自体に、問題・課題があるのでは？入院して生活能力が落ちることが当たり前ではなくて、治療しながら生活能力を低下させない工夫は院内でできないのか？（事業所）

7. プログラム（1）

- それぞれの所属機関で運営的に許可の出るプログラムの作り方。（事業所）

(7) 講義6：地域移行の進め方と市町村（圏域）における連携体制の構築

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（55）

■より詳しく知りたい内容（9）

1. 支援の流れ・進め方(13) 2. 自分の仕事の再認識(12) 3. 連携(7) 4. 情報の大切さ(6) 5. 退院支援意欲の喚起(5) 6. 退院はゴールではなくスタート(3) 7. わかりやすかった(3) 8. ムービー(2) 9. 患者さんの気持ちの理解(1) 10. クライシスプラン(1) 11. シェアリング(1) 12. 地域づくりの方法(1)	1. 具体的事例(7) 2. チームづくり(1) 3. クライシスプラン(1)
---	---

■役に立ったこと（55）

1. 支援の流れ・進め方（13）

- 退院支援の流れの整理と体制づくりのポイントを伝えて頂いたこと、イメージが深まりました。（事業所）
- 導入期に患者さんの不安を取り除くのが大事だと思いました。（事業所）
- 進め方がよく理解できた。（事業所）
- 地域移行の申請から手続きまで、図を用いてわかりやすく説明して頂きました。HP でできる事や役割を他職種で考えていきたいと思いました。（病院）
- マネージメントを移行していくのが中々難しい。（病院）
- 地域移行に向けた支援（導入期から中期・後期）の中で、段階を経た支援を。（病院）
- 地域移行の具体的な流れがよくわかった。（病院）
- どのタイミングでどのような支援が必要かわかった。（病院）
- フローチャート。（病院）
- ガイドラインが非常にわかりやすく、どの時期に誰が何を取り組めば良いか理解できた。（病院）
- 退院までの想定パターンが図つきで考え方がわかりやすかった。（病院）
- イメージの共有のために、進め方の図も有効だと思った。病院から地域への主導権の移行がむずかしいと思う。（病院）
- 地域移行支援の流れが理解出来た。（病院）

2. 自分の仕事の再認識（12）

- 自分の立場で何をすべきなのか、改めて考えました。（事業所）
- 実際に地域移行に取り組んでいきたいと感じました。（事業所）
- 自分の行動を振り返りながら聞くことができた。改めて、やらねば、さらに進まねばと感じています。（事業所）
- 視点が変わると支援も変わる、ということを学びました。（事業所）
- 考え方、捉え方によってハードルを低く捉えることができ、地域移行ケアが身近に感じる事ができた。（事業所）

- わかりやすいプレゼンテーションであり、今後参考とした。我々PSW は改めて患者の味方であるということをお願いしました。(病院)
- 地域の社会資源を見学することから始めて意欲を取り戻す支援に力を入れていきたいです。(病院)
- 支援者が本人より先に退院をあきらめないこと、当然の事です。自分にあてはまると、あきらめてる事、あきらめさせている事があるのではないかと考えさせられました。(病院)
- 基本だけど振り返りになった。(病院)
- 実践的な内容でとても分かりやすかったです。(病院)
- 地域移行の仕組みがわかった。病院での役割を再確認できた。(病院)
- チームを作って患者さんと関係を作りながら丁寧にかかわっていくということを、思いだけでなくしっかりと計画を立てて実行していくことを考えていきたいと思いました。(病院)

3. 連携 (7)

- 医療と福祉との連携、二人三脚のタオルの役割が行政の役割であること。(その他)
- 医と福とのスピードの違い。違いがあるという事を知っておく。違いがあることは悪いことではない。だからお互い協力が必要なのだ。自立支援協議会がポスター作って、行政が病院巡回連携(ポスター貼っていないと指導も・・・それは行政だからできること!!)。(事業所)
- 行政がバトンになるというメッセージが残りました。(事業所)
- 病院と地域についてお互いの役割を深めた上で連携の大切さを一緒に共有できた。(事業所)
- 自立支援協議会の活用について地域性を考えて利用していきたいと思った。(事業所)
- 具体的に連携について考えることができた。(病院)
- 初期の段階より、地域の支援者と連携を行う必要性(今まではタイミングが遅かったのかもしれない)。(病院)

4. 情報の大切さ (6)

- 情報を入院している方に届けるための工夫など。(事業所)
- 情報の届け方が参考になりました。またクライシスプランをつくる段階や、地域移行の進め方等の表を頂き、どの段階で何をしたら良いかわかりやすかったです。病棟の方にも知らせられると良いなと思いました。(事業所)
- 情報(地域移行や福祉サービス)を届ける大切さと難しさを感じた。(事業所)
- 病院は患者さんに地域移行の情報を伝える責務があるということを認識した。(病院)
- 情報の一つとしてのポスターにしても、各病棟に活用できるものを作ってもらい、そのスタッフも患者様、当事者や家族に説明できるようなものになると「であい」につながると感じました。(病院)
- 情報を伝える事の大切さを改めて感じた。(病院)

5. 退院支援意欲の喚起 (5)

- 「退院意欲の喚起」より「退院支援意欲の喚起」。(その他)
- 退院意欲ではなく、退院支援意欲の喚起という視点に気があった。(事業所)
- 退院意欲の喚起より、退院支援意欲の喚起が必要ではないかということ。(病院)
- 退院支援意欲の喚起について、自分もその考えを持ち続けたいと思いました。(病院)
- 「退院支援意欲」ととてもステキな言葉です。自分自身だけでなく、他職種にも広げて行きたいです。(病院)

6. 退院はゴールではなくスタート (3)

- 退院はゴールではなくスタートであること。(その他)
- 医者の方のゴールは退院ではない。その後の生活に視点をおく事。(病院)
- 「退院はゴールではない」とわかったこと。(病院)

7. わかりやすかった (3)

- 研修におけるロールプレイの達成感、とてもよかったです。(事業所)

- 堅苦しい内容をく다いて話して頂き、楽しく今後のことを考えることができました。(病院)
- 見方を変えるたとえが分かりやすく面白かった。(病院)

8. ムービー (2)

- ムービーもとてもわかりやすく、当事者の方の目線を知ることができて良かったです!! (病院)
- DVD とても良かったです。地域移行支援計画を実際に使ってみたいと思った。使った上で自分の職場に合わせて変えて活かしてみたいと思う。(病院)

9. 患者さんの気持ちの理解 (1)

- 具体的な方法、患者さんの気持ちを知ることができた。(病院)

10. クライシスプラン (1)

- クライシスプランを作成しておく事の大切さ。(病院)

11. シェアリング (1)

- 講義を聞いたあと、地域の方とすぐシェアリングできたこと。(病院)

12. 地域づくりの方法 (1)

- 地域づくり方法が理解できた。(事業所)

■より詳しく知りたい内容 (9)

1. 具体的事例 (7)

- 市町村、保健所との連携事例、地域の取り組み。(事業所)
- 具体的事例なども取り上げていただけたら良いと思います。(事業所)
- 具体的な事例が1つでもあると、さらにイメージがしやすいのではと思った。(事業所)
- 地域移行支援での取り組みの実際 (事例をもとにした内容?)。(事業所)
- 実際に使われている患者さん向けのポスター等 (退院に向けてお手伝いしますとの内容)。他にもあれば参考にしてみたい。実際のものがあればなお良いと思った。(病院)
- 具体的にどのように地域の事業者を院内に参画できるか、市町村との連携が進められるか。(病院)
- いくつかのパターンの事例をみてみたい。(病院)

2. チームづくり (1)

- チーム作りについてのディスカッション等深め、仮定モデルなども作っていくようなワークにも取り組みたいと思います。(事業所)

3. クライシスプラン (1)

- クライシスプランの作り方。(病院)

(8)演習：病院と指定一般相談支援事業所が連携した地域移行の進め方

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（52）

1. ロールプレイ(17)
2. 意識の共有(10)
3. 病院や地域の状況を知ることができた(8)
4. ピアサポーター(6)
5. 連携(5)
6. 新しい視点(4)
7. ムービー(2)

■より詳しく知りたい内容（14）

1. ピアサポーター(3)
2. ロールプレイ(2)
3. 事業所について(2)
4. 仕事のあり方(2)
5. 演習の時間が長い方がいい(1)
6. 看護師に研修が必要(1)
7. 具体的なテーマ(1)
8. 現場の課題(1)
9. スタートの方法(1)

■役に立ったこと（52）

1. ロールプレイ（17）

- 地域の事業所が抱えている不安や、問題。又 HP で感じている不安などを共有でき、意見交換を多くできたため、とてもよかったです。ロールプレイでは各々の立場に立って、思いを考えることができました。（病院）
- 様々なテーマで意見交換ができ、とても勉強になった。ロールプレイを実際にやってみることで、課題がよく見えてきた。退院支援意欲の喚起という考え方が新たな視点だった。（病院）
- ロールプレイをやることで、より具体的にその人の気持ちを考えることができた。（病院）
- ロールプレイでそれぞれの立場の役割を客観的に見ることができました。（病院）
- ロールプレイをすることで患者さんの気持ちを考えることができた。（病院）
- ロールプレイで、患者さんが事務所・スタッフを選択できる出会いについては面白いと感じた。（病院）
- ロールプレイで職種の違う役を行うことにより、それぞれの立場が理解できたよう。（病院）
- 関係機関の意見が聞けたり、多くの発見があった。ロールプレイでは他機関の気持ちを共有できた。（病院）
- ロールプレイの中で、関係機関がかかわることを、当事者がどう感じるのか考えさせられました。（病院）
- ロールプレイをしたことで、誰がどんなことをしてくれるのかが、具体的になった。（病院）
- 演習のロールプレイがとても面白かった。E グループが数事業所に来てもらって入札制にしたのですが、現実では思いつかない事も演習を通して、できない事はないなと感じました。（事業所）
- ロールプレイをしてみて、お互いのやりにくさなどがわかりました。（事業所）
- 役割を変えてロールプレイして、他職種の役割の困りごとが理解できた。（事業所）
- 病院 PSW の役をロールプレイでやり、いかに日頃の信頼関係が大事かを再認識しました。（事業所）
- ロールプレイで患者役をやり、情報の伝え方や事前準備がとても大切な事を確認できた。（事業所）
- ロールプレイ、当事者の立場で相談支援専門員と面談したら、外から来る人がどんな人なのか、緊張し、どこまで話して良いか何をしてくれる人なのか、とても不安でした。（事業所）
- 今まででは思いもよらなかったこと（当事者が3人の場面設定など）が、意外と解釈のヒントになりえるということ。（事業所）

2. 意識の共有（10）

- 他職種（時に地域の方々）との協議をする事で、病院での満足が無知であり、無利益である事を知った。（病院）
- 地域の事業の素直な意見を聞くことができた。（病院）
- 様々な部署、立場からの意見が聞く事ができて良かったです。貴重な機会でした。（病院）
- グループ内で様々なアイデアを話し合うことができ、相互理解が進んだと思います。（病院）
- 医療機関と相談スタッフと想いが共有できたこと。（病院）
- 色々なテーマにそって意見交換ができ、共通認識が生まれる場面も多々ありました。素直な意見交換が行え、顔の見える関係の第一歩ができました。（事業所）
- グループで言語化することが悩みの共有につながった。患者目線、ピアサポ同様で考えることの大切さを実感！いかに専門職視点になっていたか、偏っていたかを反省します。（事業所）
- 皆それぞれの視点や立場で様々なことを感じ考えているということがわかり、癒しになった。（事業所）
- 大阪という地域で、やっていることは共通していると思えた。茶話会やピアサポーターの導入など。しかし、それを続けてなお上手くいかない現実を打破する新たなアイディアが必要。（事業所）
- 近場の方と一緒に話せた事でかなり具体的なヒントが得られた。アイデアがいくつか浮かんだ。試したい。（事業所）

3. 病院や地域の状況を知ることができた（8）

- 他職種や色々な立場からの見方（立場が違えば考え方も違う）が知れてよかったです。（病院）
- 各機関により思い考えていることが理解できたこと。（病院）
- 事業所の諸事情や関係機関の諸事情あり、なかなか難しい状況にあると思いましたが、努力出来る事はあると思えました。（病院）
- 地域での思っていることと、病院との違いが理解できた。（病院）
- 具体的な場面を話し合い、他職種の話が聞けた事、各々の立場での関わり。（病院）
- 各機関の実情がわかった。（病院）
- 病院、地域でできることがわかり、またどのような所で困難を感じているのかわかった。対象者を一般相談事業者との出会いの場面を考えた時、対象者に事業者を選んでもらう（おひろめ会）という発想が出て、取り組めたらおもしろいと感じた。（事業所）
- HP 側の思いや実情をきけたこと。（事業所）

4. ピアサポーター（6）

- ピアの人と相談する姿勢を持つことにハッとした。（病院）
- 演習を通して、「ピアサポーターの支援」について、他の医療機関、地域の現状を知り、活用したいものもあった。院内茶話会での語りべ、病棟での囲碁・将棋など。（病院）
- ピアサポートさんと一緒に活動することで学べる。ピアサポの専門性。質の担保をあげていく。ブルドーザー支援くスコープ支援。（事業所）
- ピアサポーターとの連携について新たに考える機会になった。（事業所）
- ピアさんが入っていたので、話がよく聞けた。（事業所）
- 今回は本当に参加させてもらって良かったです。ピアスタッフとして働く中で疑問に感じていたことが、こんなにも考えて下さってのことだということが良くわかりました。目線の違いのすりあわせ、学ぶことの出会いの大切さ、ヒシヒシと感じました。今度このような研修の時には、地元のピアサポーターの方も来れるような会になれば、より具体的にすすむのではと思いました。（その他）

5. 連携（5）

- テーマにそって一緒に地域移行支援に考えたことがとてもよかった。私達が地域移行支援の「雰囲気」を変えていく。「みんなでバトンをつなげるように」。（病院）
- お互いのやりやすさのために、お互いできる手を貸すこと、とりあえず思いつくことをあげる。その雰囲気づくりがまず大切。（病院）
- 病院の課題として抱えこむのではなく、それも含め地域の課題として捉える考え方。（病院）

- グループで話し合え、病棟内での退院促進の様子を聞けてよかった。医療と福祉が連携をとっていくことが必要であると感じた。(その他)
- それぞれ連携しながら考えていけば退院に向けて進めていけると思いました。(事業所)

6. 新しい視点 (4)

- グループワークをすることで、自分1人では考えつかないこと「アイデア」がみつかることがわかった。(病院)
- 積極的なディスカッションができて、視野が広がりました。(病院)
- 支援を受ける側の立場に焦点を当てた演出で楽しく勉強になった。(事業所)
- 自分の接し方や、面接のことを振り返ることができました。(事業所)

7. ムービー (2)

- 具体的な地域移行の進め方を知ることができてイメージがついた。ムービーが分かりやすかったです。(病院)
- 有野さんの話は熱を感じました。ムービーとても良かったです。(事業所)

■より詳しく知りたい内容 (14)

1. ピアサポーター (3)

- ピアサポとは！(事業所)
- ピアさんが入った方がいいと思われそうです。(事業所)
- ピアサポーターの養成を行っているところの実践、当事者（担い手）の感想等が聞けると良いです。(病院)

2. ロールプレイ (2)

- ロールプレイの発表がききたかったです。(事業所)
- ロールプレイが良かったです。(事業所)

3. 事業所について (2)

- 相談支援事業所の課題。優先すべきケースの選択。(事業所)
- 指定一般事業所について。(病院)

4. 仕事のあり方 (2)

- 相手の気持ちになって考えると、こういうことなのだと改めて感じられました。最初の段取りがとても大切だと思います。(事業所)
- 改めて、自分が日々流されて仕事をしていることを痛感した。(病院)

5. 演習の時間が長い方がいい (1)

- 演習への時間が多いいと思う。(病院)

6. 看護師に研修が必要 (1)

- 多くの看護師にこの機会が提供できるとよい。(病院)

7. 具体的なテーマ（1）

- もう少し具体的なテーマで話し合ってみたかったです（人物の設定など、これを決めるのに時間がかかりました）。（病院）

8. 現場の課題（1）

- 現場レベルでの困り事を共有できる時間がもう少し長くあってもよかった。（事業所）

9. スタートの方法（1）

- まず、どのようにスタートを切ればいいのか、他の方の意見を聞いてみたい。（病院）

(9)全体をとおして

※（ ）は件数

※基本的に原文の通り記載している

※文末の（事業所）は障害関連事業所に勤務している人、（病院）は病院に勤務している人、（その他）は事業所や病院以外に勤務している人の回答

■役に立ったこと（48）

1. 他の職種の意見・立場の理解・想いの共有（22）
2. 日頃の仕事の再認識（11）
3. 連携づくりに役立った（4）
4. 地域移行のポイント（4）
5. 地域の中での連携・関係づくりの大切さ（3）
6. 新たな気持ちで努力したい（3）
7. 研修の必要性（1）

■より詳しく知りたい内容（23）

1. 他職種の話（3）
2. ピアサポーター（3）
3. シェアリングの時間を増やす（2）
4. 事例（2）
5. 病院の在り方（2）
6. 用語の解説（2）
7. 地域住民の理解（1）
8. 地域包括ケアシステム（1）
9. 家族支援（1）
10. 感謝（1）
11. 権利擁護（1）
12. 実際の映像や体験や事例（1）
13. 退院支援意欲の向上（1）
14. 連携（1）
15. ロールプレイ（1）

■役に立ったこと（48）

1. 他の職種の意見・立場の理解・想いの共有（22）

- 病棟の話を普段聞けないので、シェアリングで聞けたことが良かった。他市のしくみが聞けた。基幹相談支援センターや事業所の成り立ちの違いで、動き方が違うと感じた。（その他）
- 医と福との連携と言っても、なかなか同じ場所・時間に顔をつき合わせて学ぶ・交流できる場はないと思うので、研修を通して皆さんと色々話せて日頃のしんどいことも含めて語り合えて楽しかったです。（事業所）
- 病院（PSW、看護師）と地域（相談支援員、ピアサポーター）と一緒に地域移行を考える機会がなかったので、とても参考になることが多かった、それぞれの立場の思いや、課題が共有できた。（事業所）
- 他職種の方と話ができて、刺激をもらいました。（事業所）
- 今回看護の方とたくさんお話できたのが、とても良かったです。（事業所）
- 今回の研修では医療側、双方、そして多職種が参加して課題共有ができたことが良かったと思います。（事業所）
- 地域以外の状態がわかったのでよかった。（事業所）
- 身近な人たちと研修を受けて、思いを共有できたことが良かったです。ピアサポーターの不在など課題はあるが、きっかけ作りになった。（事業所）
- 医療機関でケースワーカー以外の方と話し合いができた。今後一緒にやれそうな気配を感じる。（事業所）
- 地域移行で携わる他職種を含めた方と意見交換でき、とても勉強になった。行政にも入ってもらえると良かった。ピア活動を進めていくために、どう行政の理解を得ていくか課題に感じた。（事業所）
- 看護師・OT等、普段関わることのない職種の方と一緒に研修を受け、共有できたこと。（事業所）
- 同じグループ内にHP、地域がまざっていて、都度共有できることが良かった。（病院）
- 病院は地域を！地域は病院を。現状を知る事ができた。（病院）

- シェアリングの時間が大変よかった。経験年数が私自身は浅いため、ベテランの方の視点が非常に勉強になった。(病院)
- グループワークをすることで、他院、他機関の取り組みを知ることができたこと。(病院)
- PSW 以外の人からの意見を聞くことができて、良かったです。地域の方の声も身近に感じました。(病院)
- 病院、地域の支援者が同じ課題をどの視点から見ているのか、今まではわかりにくかったですが、それぞれに重なる部分を増やすことができたように思いました。(病院)
- 病棟外の方の話聞く事で、新しい事を知り、地域移行についてのしるきを知ることができた。(病院)
- シェアリングで疑問を聞く事が出来た。(病院)
- PSW の方と話せて、自分があまりに知らないことを知れました。(病院)
- 他の機関の人と話ができたこと。いろいろなところに目を付けなければいけないということに気付かされた。(病院)
- 相談員の立場。(病院)

2. 日頃の仕事の再認識 (11)

- わかっているつもりでも、わかっていないことや、慣れてしまった大切な視点を思い出させてくれたことが、とても良い研修となりました。(事業所)
- 皆であでもない、こうでもないといふこれ考える時間自体が、支援者にとってまさにピアの役割を果たしているのだと感じた。(事業所)
- PSW が語る言葉には、当事者の方に対する熱い想いと PSW の使命を強く感じます。とても良い研修に参加させて頂きました。特に長期入院の問題は、人権問題なのだという認識を持ち、支援する体制づくりに取り組んでいきます。(事業所)
- 今までの仕組みでうまくいかなかったのなら、違う方法、違う視点で取り組むという思考の柔軟さ。リフレーミングの大切さ、自分たちも難しく考えず、目の前の利用者の支援をしていくこと。(事業所)
- 普段なかなか意識できないが、ものごとの視点を変えること、相手の立場に立った支援の必要性を感じることができた。(病院)
- 講義、ロールプレイ、シェアリング、それぞれの時間しっかり設けられており、実践とふり返りができたことが良かった。(病院)
- まず大きな動向、施策を確認して、その中で今自分がどこにいるか何が問題か考える機会にできる。行政や地域にむけてスタンスを変えることが必要だと思った。地域移行は「待ったなし」ということが特に印象的。(病院)
- 地域移行支援について、知らなかったことをたくさん知ることができて、大変勉強になりました。職場(部署)に持ち帰り、共有して地域支援に対する意識を持つことと、できることから地道に行っていくことの大切さを感じました。(病院)
- 地域移行のテーマですが、長期入院者の退院支援の場だけでなく、外来、OC、訪問など様々な場面に共通した中身で、PSW として再認識ができて良かったです。(病院)
- 日々の業務・自分の姿勢の再確認になった。同じ地域の方と勉強できたことで、今後の取り組みについて考えることや、より地域移行を進めていくエネルギーになったと思う。(病院)
- 自分が今思いついたり、経験したことから行う支援がとても狭く、色々な人同士が会うことで、色々な可能性が生まれると感じました。その接点をいかに増やすかを教えていきたい。(病院)

3. 連携づくりに役立った (4)

- 退院支援について様々な視点で考える機会を与えて頂き、「考える」ことに集中できる研修となりました。皆さんと支援のイメージを持って、今後の取り組みへ昇華させていきたいと思ひます。演習なども通してチームのイメージは深まり、より顔の見える関係は築けたと思ひます。ありがとうございました。(事業所)
- 地域移行の流れや、それに携わる方の役話を1つ1つ整理しながら学ぶことができました。今回の研修でぜひ今後利用を検討していきたいと思ひました。又、地域の役割や声を直接聞けたことで、今後の業務での連携で役に立っていくと感じました。(病院)

- 医療と地域の連携の難しさを感じた上で、必ず連携できるという思いもできた。又、「地域移行」ができないという医療者側のあきらめが、一番大きな要因ともなっているとも感じる。気持ちをあらためたいと思う。(病院)
- 地域移行支援を他職種と行うことでリカバリーにつながっていく。それは入院だけでなく、地域につないだ後もつながっていくことだと感じた。私ができることを活用していきたい。(病院)

4. 地域移行のポイント (4)

- それぞれ講師の方の話はわかりやすく、改めて消化して理解できたと思います。計画・相談の現状や、何故全国的に 500 件の利用であるか感じた。(病院)
- 地域移行支援のポイントについて、よくわかった。(病院)
- 患者に対してのアプローチ方法がわかった。(病院)
- ピアサポーターの存在が、私の働く病棟では外部からの退院支援へ向けての大きな刺激になるなと感じました。退院したいという気持ちを支えていきたいと思いました。(病院)

5. 地域の中での連携・関係づくりの大切さ (3)

- 同じ地域で働く支援者がそれぞれの抱える課題を共有しながら学べたことで、今後よりいっそう連携が強まると同時に、PSW 個人として考えるのではなく、地域全体の課題として考えることのきっかけになったように思います。(病院)
- 地域との関係づくり（地域づくり）が大切になることを再認識できたので良かった。(事業所)
- 地域移行の進め方で、相談支援だけで抱え込むことなく、他の職種の方の力を借りていける気がしました。(事業所)

6. 新たな気持ちで努力したい (3)

- 地域移行の進め方について、現在自分が行っていることの意義や誰のため、何のための支援なのか再確認する機会になった。(事業所)
- 休憩も間に何度かあり、良かったと思います。事情は色々あるとは思いますが、努力して行きたいと思いました。(病院)
- 退院支援をがんばろうという気持ちとなった。(病院)

7. 研修の必要性 (1)

- 地域移行を推進するにあたり、当病院にも進め方等の研修会を開催する等、必要であると感じた。(病院)

■より詳しく知りたい内容 (23)

1. 他職種の話 (3)

- 看護師さんが地域移行に積極的に取り組んでおられる話し等もしてもらえるといいなと思いました。(事業所)
- 他職種の方とお話できることが増えれば良いなと思います。(事業所)
- いろんな職種＋当事者の人のシンポジウム。(病院)

2. ピアサポーター (3)

- ピアサポーターについて、実際の活動や実体験（ピアサポーターとしてのの）をもっと知りたい。堺市だどこが当てはまるのか、地域性も組みこんで欲しい。(病院)
- ピアサポーターについて、活動の実際と、効果的な養成・育成プログラムについて。(病院)
- ピアサポーターの話などは、当院でももっと多くの方に聞いて頂きたかったと思いました。その時間だけ、特別講演として、一般参加も認めて頂けたらありがたかったです。(病院)

3. シェアリングの時間を増やす(2)

- もう少しざっくばらんに交流できる機会があれば良いなと思いました。グループ以外の人とも意見交換してみたかったです。(病院)
- シェアリングの時間がもっとあっても良かったと思いました。(病院)

4. 事例(2)

- 実際の事例を当事者との話の中で聞きたいと思った。行政の話も聞きたいと思った。(事業所)
- 大枠としての仕組みについて学ばせて頂いたので、事例などでその方法について知りたい(現場によって、やり方も違うと思われるが一例として)。(病院)

5. 病院の在り方(2)

- 開かれた病院をつくるには？患者にも、地域にも優しい病院とは？なにかを模索していけたらと思う。(事業所)
- 自立支援協議会の 1HP あたり、今後の地域移行を出す案件で、1HP5 件収支として＋という考え。(病院)

6. 用語の解説(2)

- 言葉が難しく、なかなか理解しにくい所があった。用語集みたいなのがあればと思った。(病院)
- 制度・法律のことが自分は疎くて、途中わからないことが多かったので、精神科で勤めるのでしっかりと意識として身につけたいと思います。(病院)

7. 地域住民の理解(1)

- 専門職だけではなく、地域住民への理解活動も地域移行を進める上では重要なことであると思います(今回の主旨とは外れると思いますが)。(事業所)

8. 地域包括ケアシステム(1)

- 包括ケアシステムについて。(事業所)

9. 家族支援(1)

- 家族支援について。(病院)

10. 感謝(1)

- 講師の方達の話術に関心しました。進行もスムーズで、2 日間研修を受ける事が出来ました。本当にスタッフの皆様をはじめ、ありがとうございました。(病院)

11. 権利擁護(1)

- 権利擁護の話、特に精神科医療の歴史について。地域の指定相談の方にきいてほしいです。※今回参加者の方々には必要ないかもしれませんが……。 (事業所)

12. 実際の映像や体験や事例(1)

- 退院準備プログラムより具体的な内容や、実際のプログラムの映像や体験をしてみたいと思った。(事業所)

13. 退院支援意欲の向上（1）

- 実際の地域で地域移行の研修をするにはどうしたらいいか（退院支援意欲の向上について）。(病院)

14. 連携（1）

- 様々な地域での連携の取り組みについて現場の人からの話が聞きたいです。(病院)

15. ロールプレイ（1）

- 最後のロールプレイはおもしろかった。(病院)

7 調査票

(1) 研修前アンケート

精神障害者の地域移行支援に対する意識について【事前アンケート】

- このアンケートは研修前後における個人の変化をみるため、個人を特定する必要があります。
必ず、お名前の記入と全ての項目への回答をお願いいたします。
- 個人を特定して公表することはありませんので、現在の状況を率直に回答してください。

1. あなたのお名前をお教えてください。

お名前

2. 以下の1～15の項目について、それぞれ1つ○をしてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	少しあてはまる	あてはまる
1 地域における精神医療の現状がわからない					
2 地域移行支援のプロセスがわからない					
3 精神障害者に関する地域の資源(関係機関や関係会議)をよく知らない					
4 地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない					
5 どのような職種や立場の人が地域移行支援にかかわっているかわからない					
6 地域移行支援における医療と福祉の連携は難しいと感じている					
7 精神障害者の長期入院の課題は、精神病院が努力すれば解決する					
8 精神障害者に対する地域の理解を得る自信がない					
9 入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない					
10 地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない					
11 地域の(自立支援)協議会のことをよく知らない					
12 地域移行支援で困った時にだれに相談したらいいかわからない					
13 地域移行支援にはあまり携わりたくない					
14 高齢の長期入院患者は地域移行支援の対象にならない					
15-1 ★医療機関に所属している方 家族に入院患者の退院を理解してもらえるよう対応する自信がない					
15-2 ★医療機関以外に所属している方 精神障害者にかかわることに不安がある					

3. 実際に現場で、精神障害者の地域移行支援の対応で困ったことはありますか。
具体的内容をお教えてください。

--

(2)研修後アンケート

地域移行を推進する人材養成モデル研修 参加者アンケート

◆ 本日、参加されている方の基本属性をお聞かせください。

問1 (1)～(7)それぞれについて、お教えてください。

(1) あなたのお名前をお教えてください。

※このアンケートは研修前後における個人の変化をみるため、個人を特定する必要があります。必ず、お名前の記入と全ての項目への回答をお願いいたします。個人を特定して公表することはありませんので、現在の状況を率直に回答してください。

お名前	
------------	--

(2) 性別 (1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(3) 年齢 (1つに○)

1. 20 歳代 以下	2. 30 歳代	3. 40 歳代	4. 50 歳代	5. 60 歳代 以上
----------------	----------	----------	----------	----------------

(4) 所属先の種類 (1つに○) と在職年数

1. 地域移行機能強化病棟をもつ精神科病院 2. 上記以外の精神科病院 3. 基幹（委託）相談支援事業所 4. 指定一般相談支援事業所 5. その他（ ）	➡	左記で回答した 職場での在職年数 おおよそ（ ）年
---	---	-------------------------------------

(5) 所属先での役職・立場 (1つに○)

1. 施設や事業所等を管理する立場（経営者、施設長、管理者等） 2. 職員を指導する立場（係長、主任等） 3. 直接支援をする職員 4. 事務職員 5. その他、上記に該当しない職員（ ）
--

1. 医師 2. 看護師 3. 保健師 4. 精神保健福祉士 5. 作業療法士 6. 相談支援専門員 7. ピアサポーター 8. 社会福祉士 9. 社会福祉主事 10. 行政の職員 11. その他（ ）	 左記で回答した 従事している<u>主な職種</u>の経験年数 おおよそ（ ）年
--	---

1. したことがある 2. したことはない	実際に地域に移行した人は何人ですか。 いない場合は「0」 () 人
-------------------------------------	--

--

◆ 精神障害者の地域移行支援に対する意識について【 事後 】

※ここでは、事前アンケートと同じ質問をしています。現在の状況を率直に回答してください。

問 3 以下の1～15の項目について、それぞれ1つ○をしてください。

- | | | | | |
|------------|---------------|------------|------------|----------|
| 1. あてはまらない | 2. あまりあてはまらない | 3. どちらでもない | 4. 少しあてはまる | 5. あてはまる |
|------------|---------------|------------|------------|----------|

▼ 1～14 は、すべての方に、15 は所属機関に応じてうかがいます。

1. 地域における精神医療の現状がわからない	1	2	3	4	5
2. 地域移行推進のプロセスがわからない	1	2	3	4	5
3. 精神障害者に関する地域の資源(関係機関や関係会議)をよく知らない	1	2	3	4	5
4. 地域移行支援における地域の関係機関の役割がわからない	1	2	3	4	5
5. どのような職種や立場の人が地域移行支援にかかわっているか知らない	1	2	3	4	5
6. 地域移行支援における医療と福祉の連携は難しいと感じている	1	2	3	4	5
7. 精神障害者の長期入院の課題は、精神病院が努力すれば解決する	1	2	3	4	5
8. 精神障害者に対する地域の理解を得る自信がない	1	2	3	4	5
9. 入院患者の意欲喚起への取り組み方がわからない	1	2	3	4	5
10. 地域移行支援におけるピアサポーターの役割や連携の取り方がわからない	1	2	3	4	5
11. 地域の(自立支援)協議会のことをよく知らない	1	2	3	4	5
12. 地域移行支援で困った時にだれに相談したらいいかわからない	1	2	3	4	5
13. 地域移行支援にはあまり携わりたくない	1	2	3	4	5
14. 高齢の長期入院患者は地域移行支援の対象にならない	1	2	3	4	5
★医療機関に所属している方	15-1 家族に入院患者の退院を理解してもらえるよう対応する自信がない				
★医療機関以外に所属している方	15-2 精神障害者にかかわることに不安がある				

◆ 本日の研修について、ご意見をお聞かせください。

問4 本日の研修の内容等は、現場での対応に役に立つ内容でしたか。(それぞれ1つに○)

5. とても役に立った	4. 役に立った	3. どちらでもない	2. あまり役に立たなかった	1. 役に立たなかった
1日目				
講義1 精神障害者の地域移行をめぐる動向①～精神科医療の現状～	5	4	3	2 1
講義2 精神障害者の地域移行をめぐる動向② ～地域移行支援について～	5	4	3	2 1
講義3 体験談から地域生活について考える	5	4	3	2 1
2日目				
講義4 地域移行推進における関係機関・関係者の役割	5	4	3	2 1
講義5 退院意欲を取り戻すための支援	5	4	3	2 1
講義6 地域移行の進め方と市町村(圏域)における連携体制の構築	5	4	3	2 1
演習 病院と指定一般相談支援事業所が連携した地域移行の進め方	5	4	3	2 1

※以下の問は、それぞれ、空欄に自由にお書きください。

問5 役立った内容は具体的にどのようなことですか。また、より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等がありますか。

1日目

講義1 精神障害者の地域移行をめぐる動向①～精神科医療の現状～ 役に立ったこと
より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

講義2 精神障害者の地域移行をめぐる動向②～地域移行支援について～

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

講義3 体験談から地域生活について考える

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

2日目**講義4 地域移行推進における関係機関・関係者の役割**

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

講義5 退院意欲を取り戻すための支援

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

講義6 地域移行の進め方と市町村(圏域)における連携体制の構築

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

◆ 演習 ◆病院と指定一般相談支援事業所が連携した地域移行の進め方
役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

全体的にみて

役に立ったこと

より詳しく知りたい、新たに研修に加えてほしい内容等

問6 その他、進め方や資料等について、ご意見があればお聞かせください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

厚生労働省 平成28年度障害者総合福祉推進事業

指定一般相談支援事業所（地域相談支援）と精神科病院の職員が協働して
地域移行に向けた支援を行うための
研修カリキュラム及びガイドライン等の開発 報告書

平成29（2017）年3月31日 発行

発 行 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会

所在地 〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F
TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993
E-Mail : office@japsw.or.jp URL : <http://www.japsw.or.jp/>

